



漕 魂

29 + 30 合併号

2008年

長崎大学医学部漕艇部



漕 魂

29 + 30 合併号

2008年

長崎大学医学部漕艇部

卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び帰らざる

若き日の感激を謳わん。

漕魂の歌

作詞：今里雅之

作曲：岩谷 伶

一. 街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二. 水を切り 走る崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三. スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げる コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく

目次

〈特集〉

山本先生への追悼文	4
市川 辰樹 先生	4
福井 雅士 先生	4
大石 正雄 先生	6
高橋 優二 先生	8
及川 将弘 先生	10
丹羽 正美 先生	11

〈「寄稿」〉

山近 史郎 先生	12
山本 太郎 先生	13
ウィクアンロン 先生	19

〈活動報告〉

昨年度主将挨拶	23
新主将挨拶	24
新入生紹介	25
二〇〇七年度試合結果報告	28
二〇〇八年度試合結果報告	30
二〇〇七年度コックス記	32

二〇〇八年度コックス記	40
部員雑感	48

〈OB会〉

二〇〇七年度OB総会議題一覧	60
平成二十年度長崎大学医学漕艇部OB会収支報告	61
長崎大学医学漕艇部OB会会則	62
長崎大学医学漕艇部OB会会員名簿	63
長崎大学医学漕艇部OB会役員名簿	72
長崎大学医学漕艇部OB会賛助会員名簿	73

〈広告〉

.....	74
-------	----

ホームページ紹介、OBメーリングリストご案内	78
------------------------	----

編集後記	79
------	----



鵬 翼



蓋 世

崎陽CICW2000

~Nagasaki university medical rowing club~



崎 陽



普 賢

山本経之君の思い出

平成三年卒業 市川 辰樹

平成十七年二月初旬、第一内科の江口教授より教授室まで呼び出しを受けた。そこには形成外科の平野教授がお見えになっていた。医局の若い先生に重大な病気が検診で見つかった、とのこと。江口教授にご相談にお見えになったのである。その時に彼の名前を聞いたのだが、ボート部の後輩であるとは気がつかなかった。我々のグループで彼の診療を担当することになったあと、丹羽教授よりボート部の後輩がその彼であると聞き心底驚いた。私とは学年も離れており、勿論一緒に漕いだことはなかったのだが、彼が学生の頃、私は一内の研究生だったが、飲み会で後輩を指導したら逆にしかられた、などという他愛のない話を彼から聞いたことを覚えている。

治療は困難を極めた。最初の段階で予後六ヶ月と告知し、治療を開始した。そして、平成十九年十二月に不幸な転帰をとることになったのはOBの先生方、現役部員も聞き及んでいることと思う。三十歳で発症し、その後治療を続けていくのはつらいことであつたに違いない。しかし彼は自分の意見をしっかりと持ち、決して投げだすことなく、生き抜くことが出来たのではないかと思つている。彼がその様に闘病生活を送られたのは奥様のおかげであると思う。そ

して病室に時折集つていた同年代の仲間達も大きな力となつていたに違いない。彼が治療の場として長崎大学を選んだのは、母校でありボート部があつたせいだと感じている。

ボート部の後輩と話をすると彼のことを思い出す。私には、やるべきことが目の前に山の様に残っている。でも、着実に少しずつそれを切り崩してゆけば彼も喜んでくれるような気がする。

山本経之先生を悼んで

医療法人春回会井上病院形成外科麻酔科

平成四年卒 福井 雅士

あの山本君がこの世からいなくなつて早や一年がたとうとしています。

結構な二枚目で、しかし厭味な感じではなく、愛嬌に溢れたあの笑顔はもう二度と見られません。あふれんばかりの健康と才能に恵まれていたはずの彼が、何故こんなに早く逝つてしまったのか、ご本人はもとよりご家族のご無念を考えると、慟哭の極みを感じずにはいられません。本当に本当に悔しかったことでしょう。もつともつと生きていろうんな事をしたかつたでしょう。君が生きていたら、さぞ

かいろいろな功績を医療にも、ボート部にも、御家族にも残したに違いありません。何としても生きたかったのに、生きることが許されなかつた君に、心の底から哀悼の誠をささげたいと思います。

彼との出会いはもちろんボート部でした。いつぞやのOB会の席で初めてお会いしたのだと思います。その時は、ボート部に似合わないような、えらくかっこいい奴がいるなあーと若さとルックスと背の高さに感嘆した記憶があります。ボート部キャプテン時代の彼は、自分にも後輩にも厳しく、練習では手を抜かないことで有名で、後輩からは恐れられていたと、聞いたことがあります。私にとっては、いつでもかわいい後輩でした。

卒業後、形成外科に入局してくれた彼とは、その後も研究会や学会でよくお会いしました。忘れられないのは、長崎で研究会があつたとき、彼を我が家にお招きした時のことです。早く帰ろうかなと、つぶやいていた彼をタクシーで我が家に連行し、一緒に風呂に入り、ビールを飲みました。築三十五年のボロい我が家の風呂は、隙間風がスースー通つて寒いので、風呂の温度をガンガンに炊いて二人して湯船につかり、温まつたところで裸で腕立て（腹筋だつたかも）をしました。「これで温まつたし、ビールがうまいぞ。」ということ、ビールは食卓につき、彼は女房の手料理を美味しいと言つて食べてくれました。そのまま飲んで二人で雑魚寝した翌朝、「また来ます。」と言つて帰つていきま

したが、その後例の病気が見つかり彼が二度と我が家に来ることはありませんでした。

ボート部OB会三十周年記念レセプションには、病の身を押し来てくれました。頬がこけて毛糸の帽子を取れずにいた痛々しい姿でした。しかし別れ際に「来てよかったです。呼んでいただけいてありがとうございました。」と喜んでくれていました。また翌日の子ヶ川レガッタにも「行きたいんですけどー、体調が…」と、思うようにならない身体にうらめしそうに洩らしていた姿を思い出します。

大学病院での入院中にお見舞いに行つた時は、新婚の奥さんと少し照れくさそうに、また入院自体に戸惑つていような、そんな感じでした。彼にとっては、新婚生活が闘病生活だつたのです。

その後は、市川さんから少しずつ漏れ聞く話でしか、消息が分かりませんでした。もともと数カ月だと診断されていた病気にいろいろな局面を経て数年に渡つて闘い続けた彼に、本当に頭が下がります。ボートの練習の時のように、自己に厳しく耐えていったのでしょうか。平成十九年十二月二十五日、彼は逝きました。

山本君、君はよくやつた。本当によく頑張つた。最後はどんなに悔しかっただろう。私は、君のその悔しさを忘れない。また君の笑顔も忘れない、君の思い出を胸に刻んでこれからも、良き医師、良きOBを目指し、君の分まで人生を全うしていくことを約束する。どうか安らかに眠つて

くれ。山本君、人生のイーजीオール、本当にお疲れさん。寂しいけど一旦お別れだ。さようなら。

合掌。

山本経之との思い出

中部徳洲会病院形成外科 大石 正雄

僕が大学三年のときに山本は入学してきました。その年は大量に新入部員を獲得でき、彼はその中のひとりでした。その代は人数も多かったのですが、皆個性も強く、中でも山本は私の強さでは他を抜き出しておりいろいろとトラブルも起こしていました。

同時に筋力、基礎体力というのもトップクラスで多少不器用ではありましたが、我々の代の最後の年のAクルーと一緒に漕ぐことになりました。

メンツは僕がコックスで同期の岡田和一郎、岡真一郎、一つ下の古賀聖士、そして山本と、当時はカナダ人コーチのチームがついていました。

毎年Aクルーにはもめ事がつきものですが、例にもれずその年もよく荒れていました。

自分も含めそれぞれトラブルのタネを提供するのですが、一番若く血気盛んな山本はやはりよく暴走しており、常に憤りを抱えているようでした。また、チームの要求

するメニューはかなりハードで、それもストレスの原因であつたと思います。

彼はいつも自分がこれだけできるのだから、できないのは手を抜いているからだという気持ちがあり、そのことでよく同級生と口論を起こし、あるとき、あまりのものの言いに僕は彼を殴ったことがあります。彼がやり返してくれば僕はなすすべなくやられていたでしょうが、彼は手を出してはきませんでした。

彼はその肉体的な強さのあまり弱者を思いやる気持ちに欠けていると僕は当時みていましたが、彼の嫌いなはずの弱者の典型である僕に対してはなぜか彼なりによく気を遣ってくれていたようでした。

いろいろと揉め事も多くありましたが、西医体に向けて合宿を重ね徐々に良好に仕上がるにつれ皆の結束も固くなり、山本の笑顔も増えていったように思います。その年のAクルーは前年の優勝にはかなわず西医体三位でしたが、その後の国体遠征なども楽しく、僕としては全ての過程を含めて結果には満足もしましたし、なにものにも代え難い貴重な時間を共有した仲間でありました。山本も当然欠けることのできないクルーでした。

僕は留年したり卒業一年遊んだりして奇しくも山本と同じに形成外科へ入局することとなりました。

大病院の頃はよく一緒に飲み会をしたり、また成績優秀な彼から仕事上の教えを受けたりもしました。思えば

ボート部のときもそうでしたが、彼はいつもいい加減な性格の僕をフォローしてくれていました。憎まれ口を叩きながらも、見るに耐えない先輩の仕事の尻拭いもしてくれていました。また、音楽の趣味もあい、よく彼の好きな曲を車で一緒に聴いたりしていました。

大学病院を離れてからは年に数回学会で会うだけになりましたが、形成外科のなかでは一番付き合いも長く、いろいろな経験をともにしており、学会場でも飲み会でも気付けばいつも彼と話をしておりました。

いくつかの病院をまわって北九州八幡へ転勤した際に山本も小倉にいて、たまに会うようになりました。

彼が、がんに侵されていると知ったのは北九州でのある勉強会の場で、突然のことに愕然としました。発見時より少し時間は経っていましたが、すでにかなり厳しい状態と語っていました。ただその頃の彼はすでに受け入れていたのか、怒りや拒絶は感じさせず、僕の目からは落ち着いており、自分ひとりならいつ死んでもいいが彼女がいるからまだ生きるために治療を模索していると言っていました。

そのときに山本の真の強さを見た気がしました。自分なら堪え難いであろうその状況を受容し、死を覚悟しつつも前をみているという強さ、しかも虚勢は感じられず、その本当の心境は僕には理解できていないかも知れませんが感嘆したものでした。

その後しばらくはあらゆる治療を探して、できることは

なんでもやっていたようで、お金もかかったと思いますが、大変なら貸してもいいとの僕の申し出も彼は断っていました。

何度か倒れたりしながらも、当分はできる形で仕事を続けていたようで、患者さんからも気を遣われていると笑っていました。

その後僕は沖繩へ転勤してまた会う回数も減りましたが、最後に会った学会では飲み会を抜けてふたりで話をし、以前より病状は悪化していること、奥さんのことだけが心配で心残りであることを語ってくれました。飲み会に戻るか誘ったところ、「今回の学会は大石さんに会いに来ただけですから」と言ってくれたのがとても印象的でした。

以後もたまに電話をしていましたが、脳出血を起こしてからはよく冗談めかして「葬式だけは来てくださいよ」と言っていました。その後徐々に電話口でも咳が多く話し辛くなってきたようでした。

いよいよ死期が近づいているのだなと漠然とは理解していましたが、長崎大学に入院していると聞いて少ししての突然の訃報に驚愕し、沖繩から急ぎ告別式へ向いました。到着した頃には式は終了間際で、棺の中の穏やかな顔を見ることができましたが、しばらく話をしていなかったことが強く悔やまれました。そのときに、彼が最期まで僕のことを心配していたと奥様から伝え聞き、死に際まで後輩に

気を遣わせて、なんと不甲斐ない先輩かと思いました。同時に僕にとつてはとてもかわいく頼りになる後輩でありました。

山本と一緒に聴いていた曲をいまでもよく聴きます。もう彼には会えないという虚無感も確かにそこにあり、またあの楽しく苦しく充実していた時間を同時に思い出します。人生においてあれだけの濃密な時間をともに過ごす仲間にはそう出会えるものではなく、山本と同じ舟に乗ったあのシーズンは僕にとつては貴重な宝です。

彼の冥福を心より祈っております。

山本へ

平成十一年卒 高橋 優二

今でも山本がこの世にいないという事が信じられませんが。

時々、山本のメールをみて、今でもメールを送ると返事が来るような気がします。

入部したての頃は、Enjoyクルーの自分と、Hardクルーの山本（入部当初はそのようにクルーを分けてました）。もとより軟派な感じの奴が嫌いな山本は、最初自分の事を嫌ってたと思う（推測）けど、自分の事を認めてくれたの

か、その後は、おそらく同期で一番山本と仲良くなつたと思つてます。話してみると、山本は、まっすぐな人間でした。そして、曲がった事が嫌いで、いわゆる頑固な奴でした。その為、部活で他の部員と衝突して、進退問題にまなつた事もありました。そんな時は、皆で集まって話しをしました。大体こういったときのミーティングは、数時間は話し合つてたと思います。それも、怒つたり、時には涙を流して話しあつた事もありました。それでも、そういった話し合いを経て、団結していったと思つてます。あの頃は、みんなつらかつたと思うけど、今となつては懐かしい思い出です。

学生時代に知り合つた嫁を、山本に紹介した時も、気にいつてくれたのか、昔の彼女の事は無茶苦茶いつてたけど、嫁さんの事はえらく褒めてくれたのを覚えてます。そのせいか、嫁さんも、山本の事が大好きだといつてました。

卒業後は、自分は耳鼻科、山本は形成外科に進み、時々メールで連絡をとつてました。そして、福岡の病院で働いている山本からきた年賀状には結婚するかもというような年賀状が届き、嫁と一緒に喜んでたのを覚えてます。その後自分が耳鼻科を辞め、福井大学で救急医をしていた時に、遊びに来ていた別の友人から山本の病氣の話の聞きました。

最初は信じられなかったのですが、山本からメールが来て、本当だという事がわかりました。そして、あまり人に

知られたくない（同情されたくない）ので連絡しなかった。ごめん…。というような内容の事が書いてあり、山本らしいと感じました…。何か出来る事がないかと考えていた時に、治さんや杉浦さんから電話があり、寄付をするのはどうかという案ができました。確かに、その体ではフルタイムで勤務する事は不可能で、治療費もかさみというような事は十分に予想されましたので、同期に連絡し、快諾をえました。それでも、その事を山本に伝えると、拒否されました。気持ちはあるがたいけどとは言ってくれましたが、やはり同情されるのが嫌だったんでしよう…。結局その話は無しになりました。後で考えると、もつと山本の性格を考えて、別の方法で何かしらの援助ができなかったのかと悔やまれます…。

自分が福岡の病院に勤めてからは、家族で二、三回ほど北九州までお見舞いに行き、一回は福岡のレストランと一緒に食事をしました。その時、結婚するということを知ったと思います。随分悩んだ末の決断だったと思いますが、嫁さんと良かったねといっていたのを思い出します。その後七月七日に入籍しました。式は挙げずに、モルジブに旅行に行きますというメールをもらいました。その頃が闘病生活の中で一番幸せな時期ではなかったかと思えます。

何となく、このまま山本は奇跡的に回復するのではないかと淡い期待を抱いていた時、山本からメールがきました。「脳転移し、脳出血で入院していた。少し後遺症は残った

が、日常生活は問題なくできている。とりあえず報告。今回はとりあえず死にませんでした。近いうちにホントに会いましょう。」というメールでした。現実には引き戻された自分は早速次の休日に行きました。会った時は、とても脳出血を起こしたとは思えないぐらい普通に見えましたが、山本はまだ麻痺が残っているという話をしました。結局、山本と普通に話しが出来たのはその時が最後になりました…。

山本は顔に似合わず（ごめん）子供好きで、うちの子供を可愛がってくれて、よくメールには嫁とちびによろしくと書いていました。いつもいつたのは、子供が欲しいという事でした。子供が欲しいから抗がん剤の治療をやめようかと考えた事もあるといっていました。最後に山本の家に遊びに行ったとき、子供がそそうをして、誤りのメールを書いたとき、気にしなくていい。自分には子供がいるだけでうらやましいと書いてあったとき、何ともいえない気持ちになりました…。

そして、十二月になり、山本が再度脳出血を起こして大病院に入院している。意識もなく危ないという話を聞き、病室に行ったときは、意識朦朧で、話も出来ない状態でした。でも、翌日には友人から話ができるようになったとの報告を聞き、また奇跡が起きるかもしれないと願いましたが、十二月二十五日永眠してしまいました…。

山本へ。本当に長い間お疲れ様。普通の人ならこんなに

頑張れなかったと思います。山本だから、最後まで気丈に頑張れたんだと思います。今はゆっくり休んでください。そして、山本は早い時期に上のクルーに乗ったので、なかなか一緒のクルーになれなかったけど、自分が将来そっちにいったら今度は一緒の船に乗ろうね。

山本さんとの思いで

平成十三年卒業 及川 将弘

山本さんに初めてお会いしたのは、漕艇部の勧誘のときでした。当時、山本さんは二年生であつたはずですが、とてもそのようには見えないほど貫禄があつたことを思い出します。もつと上の学年の人だと思つていました。当時の幹部学年の先輩から、「ジユテーム」というあだ名だと聞いたような記憶があります。確かに、女性を口説くときに「ジユテーム」という非日常的なフレーズをさらりと言います。そんな雰囲気はありました。

山本さんは美学の人でした。自分の美学に沿つて、自分を厳しく律しておりました。また、その美学に反する行為は、相手が目上であろうと容赦なく諫言します。人とぶつかる事は多かつたのですが、真つ直ぐな人だつたのだと思います。僕は対校で山本さんと生活を共にしましたが、も

のすぐく叱られました。しかし、九ぐらい叱つた後でぐぐらい褒めます。「本当に期待しているヤツにしか、こんなことは言わねーんだからな」という言葉が印象に残つています。後輩にとつては、すごくかつこいい先輩でした。

卒業後、形成外科での山本さんの活躍は、風の噂に聞き及んでおりました。学生時代と変わらぬスタンスで、山本流を如何なく発揮されていたようです。もちろん、優秀という評判でした。北九州で勤務地が近くなり、後輩の諸藤君と一緒に呑みに行つたときは、みんな井上病院に就職して救急をやつていこうぜ！みたいな話をしていました。僕の結婚式の三次会では「俺もそろそろ落ち着こうかなあ」と仰つていたのが思い出されます。

山本さんの病気の知らせを受けたのは、その一年後でした。入院中の大病院へお見舞いに行きましたが、外見は以前と変わらずお元気そうで、ほつとしました。しかし、山本さん自ら教えてくれた状況は、たいへん厳しいものでありました。あの山本さんが、「信じらんねーよ、もう、どうでもいいよ」と、弱気なことを言われ、僕はなんと言葉をかけてよいかわかりませんでした。

しかし、その後は奥様の支えもあり、山本さんらしく病氣と最後まで闘われました。常人であれば半年程の予後だつたのですが、一度は職場にも復帰されたとも聞いております。昨年、入院中にお会いしたときは、呼吸すら苦しい状況の中で、笑顔と、お言葉をいただきました。山

本さんは最後までかっこいい先輩でした。

こんなことを書いてみると、今でも「てめー調子のいいこと言つてんじゃねえよ」という、山本さんの声が聞こえてきそうです。本当に寂しいです。山本さんに魅せられた後輩の一人として、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

山本経之君を悼む

昭和五十年卒 丹羽 正美

凜として定めに向き合い、病と果敢に闘った貴方長崎大
学医学部漕艇部の仲間として誇りに思います。漕艇部での
貴方は、文字通り克己精励、恵まれた体力をむしろ持て余
すような精励でした。凜として群れず、狷介孤高な貴方は、
漕艇部ではどこか異質な面もあったのかも知れませんが、
しかし、クルーという肉体的な機能の同質性を追求する絆
の中で、あなたの正論は、馴れ合いという安易な同質性を
否定し純度の高い、より均質性なものへの導きであったよ
うに思えます。貴方とクルーを組んだボート部の仲間や、
貴方の指導を受けた後輩が、等しく貴方を誇りに思う所以
です。

未だ春秋に富む日々を残し、志半ばで逝った貴方の無念
さを思うとき肅然として言葉もありませんが、貴方が漕艇

部に残した多くの教えは永遠に漕艇部に語り継がれて行く
筈です。潔く敢然と病と闘った貴方の人生の清廉さは、漕
艇部に集う全ての人々の心の中で永遠に生き続けるでし
う。

くご寄稿く

ジョギングのすすめ

く充実感・達成感・

満足感が得られるぞ！く

昭和五七年卒 山近 史郎

大学二年の元旦に「新春長崎市民駅伝」に同級生仲間六人で参加した。皆それぞれ運動部に所属していたが部活のない日に集まって数ヶ月前から練習した。練習日誌も交代で記載した。チームワークもよく皆結構タイムが早い方だったので本番でも上位に食い込めるのでは？とうぬぼれていたが実際は四八チーム中十九位だった。そう甘くはないことを実感したが皆で元旦にひとつの事を成し遂げられた充実感、達成感そして満足感で一杯だった。大会が終わってから、次は二〇年後の四〇才でまた集まろうと誓い合った。しかしながら当然のことだろうが四〇才になると皆それぞれ忙しく走るなんて思いもつかないし誰からも声などかかるはずもなかった。厄除け式に皆で集まった頃から六人メンバー中五人で年に一回飲み会をするようになったが走る話題などはその後も全く出なかった。

五年前、走った仲間のうち元サッカー部のY君から十月末のベイサイドマラソン二キロに皆で走らないか？と誘

いがきた。彼は前年に一人で参加したがとてもきつく死ぬかと思つたそう。しかし良かったからだろう翌年の参加を皆に呼びかけてきた。しかしみんな今で言うメタボ体型になつてきており尻込みしたが、元バレー部のT・T君が乗つてきて翌年はその二人で参加した。初参加したT・T君は充実感、達成感、満足感で一杯だったそう。そして今度はその二人から皆へ誘いがあり私は来年出ようかなと思ふようになったが残りの二人は「大会まで出なくても楽しむだけで良いではないか。」といったしごくもつともな意見であった。それで翌年は三人で出ることになったが、ベイサイドの前に八月末の五島列島夕焼けマラソン五キロに三人で参加した。二〇才での新春駅伝以来の市民マラソン参加であつたが最後の心臓破りの坂がきつくゴールした瞬間に二〇才での充実感、達成感がよみがえり何とも言えない満足感に浸つていた。直後のビールと完走者に権利がある五島牛試食野外バーベキューは格別で、遠くに夕焼けが見られ感動の一日だった。結局五キロで大会デビューしたので十月のベイサイドは十キロで出場した。残り二人の元バレー部のT・H君と元サッカー部のN君も三人に感化されてか二キロに出場した。これで五人全員のランニング再デビューとなりその後の飲み会はランニング談義でいつも花が咲いた。その後は二〇才頃の五人に皆戻つており今度はその年十二月の吉野ヶ里リレーマラソン（一周二キロを二十一週して自由にタスキをつないで完走する）に「同

樹会RC」というチーム名で参加した。実に三〇年目にして駅伝チーム復活でありとても感慨深かった。それからというものはランニング月刊誌を年間購読したりしてランニングが日課となった。ポルト部時代の陸トレではバタ足での力任せの走りだったが、臀部やハムストリングなど体の裏側を使ったフラットな走り、そして筋トレも重要であることなどランニング道の奥深さを知るようになった。出張には必ずランニンググッズを持参して皇居などで走るのが楽しみとなった。翌年は四月のさが桜マラソン、秋のベイサイドではハーフマラソンを完走した。気持ちはさらに発展し次の年は五月の長野フルマラソン、七月の久住高原クロスカントリー、十二月の宮崎青島太平洋フルマラソン、三年続いた吉野ヶ里リレーマラソンなど七つもの市民大会に出場し遅いながらも完走することができた。特に沿道の応援にはいつも感動し力をもらうことが出来た。二〇〇八年は八月の五島、十月のベイサイドでの二つのハーフマラソンにおいて、後半十キロで出現する膝の痛みで天国から一転地獄へ落ちたような経験をした。膝のMRIをとると半月板の変性との診断を受け十月以降走りをほとんど控えている。

思えばランニングに夢中になり自己タイム更新などを目標としたりして、ゆつくりと楽しんで走ることを忘れてきた様に思う。でも走りを止められた訳ではないので二〇〇九年には、充実感、達成感、満足感に加え「走りを楽しむ

む」すなわちジョギングの精神を忘れずに一〇〇キロウルトラマラソンにも挑戦したいと思っている（おい、無理するな！）。

緑地帯

平成二年卒 山本 太郎

人類史を歩く旅① 幸せの過去・未来

年老いた女が街路樹の下で、ポットからお茶を入れている。透明な朝の光がこぼれる。数人の男たちが高さ三十cmほどの小さなすに思い思いに腰掛け、紙たばこをふかしている。その脇で小さな女の子が餌を求めてきたスズメを追いかける。スズメたちが一斉に飛び立つ。男たちの笑い声。道を自転車とバイクの波が通り過ぎる。

ハノイの朝の風景である。

街に緑が多く、活気にあふれているが、アジアのほかの都市にない落ち着きを感じさせるこの街。そんなハノイを訪れるたび、私は時間を何十年もさかのぼったような感覚に襲われる。

それは幼いころ、祖母が迎えに来るまで遊んだ瀬戸内海の海辺であったり、はだしで駆け回った小学校の校庭で

あつたり。何が原因だったか、今となつては思い出せないが、泣きながら駆けて帰つた夕暮れの家路であつたりする。そんなハノイ。私にこれまでの来し方について考える機会を与えてくれる。

医師である私は今、外務省国際協力局に働いている。保健・医療、特に感染症分野での日本の国際協力のあり方を政策面で考える立場にある。発展途上国に暮らす人々が、不本意な病気で亡くなることのないように考えることが、日々の仕事だと言つてもよい。

そんな時、思い浮かべる光景が幼い時に過ごした田舎の町の風景だつたり、そんな景色の中で仲間たちと過ごした時間だつたりする。私たちが過ごした幸せな時間を、他の国の子どもたちにも同じように経験してほしいと思う。

私たちが生きている現在は過去と未来から切り離されたものではない。ベトナムの街角の風景がそう語りかけてくる。

人類史を歩く旅② 起源の大地

「一度でもアフリカの水を飲んだ者はアフリカに帰る」という言葉がある。アーネスト・ヘミングウェイの言葉だといわれるが、アフリカをフィールドとする研究者の間でもよく語られる言葉である。「何と言つても、ここはわれわれが人類としての歴史を刻み始めた大地だからね」と続

く。

大学院生のころ、初めてタンザニアへ行き、休日の数日を使つて、セレンゲッティを訪れたことがある。大地溝帯を越え、オルドバイ渓谷を経て、セレンゲッティ平原へ至る道は、一九五九年にイギリスの自然人類学者ルイス・リーキーが妻メアリーとともに、人類が人類として立つた最初の進化段階の痕跡を発見した場所でもあつた。

見渡す限り広がるサバンナ、何万頭ものヌーたちの群れ、悠然と歩く巨象の姿、そしてその果てに沈む、燃えるように赤い太陽。その時、太古の昔、この場所に立っている自分がいるとでもいつた、一瞬の既視感に襲われたことを覚えていく。

「個体発生は系統発生を繰り返す」。発生生物学の有名な仮説である。個体は受精して生まれてくる過程で、個体がたどった進化の過程を繰り返すという仮説である。その進化の過程が体内のDNAにでも記憶として残されているとすれば……。その時の既視感私の中に残されていた、そうした記憶のなせる業だつたのかもしれない。

タンザニアは、あるいはアフリカは、多くの困難に直面している。貧困、感染症、統治の問題……。しかし、この土地が私たちに私たちが人類の一員であることを思い出させてくれる限り、そこには未来があると思えてくる。私たちの祖先も、歴史の中で多くの困難を乗り越えてきたに違いないのだから。

人類史を歩く旅③ 大きな石

「住血吸虫症」の研究のために訪れたケニアの首都ナイロビでの話。「時間管理」という大学の講義で、教師は学生たちに「ちよつと頭の体操をしてみましょう」と、大きな鍋、拳大の石、砂利、砂、水を取り出し、「これを全部鍋の中に入れてください」と指示した。

多くの学生が失敗する中、何人かの学生が試行錯誤の末、拳大の石から砂利、砂の順に鍋に入れる。最後に水を入れると、教師が示したもののすべてを鍋の中に入れることができた。多くの学生はその順序を間違つたため、すべてを鍋に入れることができなかった。教師は「頭の体操」に成功した学生の例を引き、「この例から何が分かりますか」と質問した。

一人の学生が答えた。「時間はどれほど詰まっているように見えても、そこにはすき間があり、本当に努力すればもつと有効に使うことができるということです」

教師は「今の話から分かることはそんなことでしょうか」と首をかしげた。げげんそうな顔をする学生たちに教師は話し始めた。「大切なことは大きな石を最初に入れることです」「小さな砂や砂利を最初に鍋に入れようとした人たちは、どうだったんでしょう」

「この話から分かることは、最初に大きな石を入れなければ後から大きな石を入れることは決してできないということなのです。そして教師は締めくくる。「皆さんにとって人生のなかで『大きな石』とは何ですか。家族、仕事、信仰、夢……。そうした『大きな石』からまず人生の予定に入れていかなければ、大きな石が人生の予定に入ることはないのです」

自分にとって「大きな石」とは何だろう。日本とは地球の反対側になる国でしばし考えた。

人類史を歩く旅④ アフリカのスイスで：

熱帯感染症対策のリーダーとしてジンバブエの地を初めて踏んだのは、一九九九年。私は当時三十四歳。派遣先は保健省であった。その後、一年と少しを過ごすことになったジンバブエは、「アフリカのスイス」と呼ばれる美しい国だった。

そこで出会った一人のジンバブエ人女性、デイジー。私たち夫婦が暮らすことになった家の家事全般を取り仕切り、私たちの家庭教師でもあった。彼女との生活は私たちにとってはかけがえのないものだった。

そんなデイジーが逮捕された。隣人の家から金品を盗んだ容疑。警察署から電話を受けた私は署へ足を運んだが、取り調べ中という理由で彼女に会うことはできなかった。

数日してデイジーはやつれて帰ってくる。取り調べで容疑を示す証拠はなかった。しかし、彼女がその数日のことを語ることはその後もなかった。ジンバブエ警察の取り調べが厳しいことは聞いていた。デイジーにかける言葉を見つめることができなかった。

それから半年。デイジーは結核に倒れた。結核は当時、エイズウイルス（HIV）の拡大とともに再流行の兆しを見せ始めていた。拘留中に感染した可能性が高いと思い、強い憤りを覚えた。

帰国が決まったある日。デイジーが私たちを訪ねて来た。数日前に退院したばかりの彼女は青白い顔をして言った。「ありがとう、と伝えたかった」と。

時を同じくして大統領は専制体制を強めていた。欧米は援助を停止し、国内は経済的混乱に見舞われた。ガソリンを買うための列は日ごとに長くなり、通貨は暴落した。ジンバブエはその影響からいまだに立ち直っていない。デイジーの消息もその後、途絶えた。

人類史を歩く旅⑤ 疾病の回廊

トルコのイスタンブールは「東から来ると西の端、西から来ると東の端を実感する」とよく言われる街である。黒海からマルマラ海を経てエーゲ海へとつながるボスポラス海峡は、そこを經由して何千年何万年にもわたって、東西

がさまざまな交流を果たしてきた地。もちろん、そうした交流は人々に豊かさだけをもたらしたわけではない。時に戦禍が通り過ぎ、時に疾病が通り抜けた。

「疾病と世界史」に関する文献をその時期、集中的に読んでいたこともあって、イスタンブールからボスポラス海峡を望んだ時、私はこの海峡を通り過ぎたさまざまな疾病を思い起こすことになった。中国南部で発生したインフルエンザ、ガンジス川周辺に起源を持つコレラ、天然痘。こうした疾病はこの海峡を経てヨーロッパへと持ち込まれ、繰り返した大きな被害を与えてきた。

一方、それはヨーロッパ社会に疾病への免疫を与えることになった。そうした疾病の交換を通してヨーロッパ社会が獲得した免疫は、やがて彼らが航海時代を経て新世界へ進出した時、彼らさえ意識しない巨大な力となった。疾病に対する免疫を持たない新大陸の先住民たちは、ヨーロッパ人たちとの接触を通して持ち込まれた疾病に倒れていったのである。

そのすさまじさは当時、新大陸の人口が十分の一にまで減少したと言われている。そして新大陸の人口減少は「奴隷貿易の幕開け」を告げる鐘の音となった。

歴史は時として悲愴な現実を私たちに突きつけるが、そこから目をそらすべきではない。東と西を結ぶ回廊に立つた時、私はそんな歴史に思いをはせ、目のくらむような思いをしたことを覚えている。

人類史を歩く旅⑥ 負の遺産

二〇〇四年、国家エイズ対策支援のためカンボジアを訪れた。前回の訪問は国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）が撤退した後の一九九七年だったことを思い出すと、七年ぶりということになる。七年の間に首都プノンペンの様子は驚くほど変わっていた。人々が忙しそうに往来し、街角には物があふれていた。何より人々の表情が明るくなっていった。

過去数十年、カンボジアは、国際政治に翻弄され、苦難の歴史を歩んできた。ベトナム戦争の終結と親米政権の瓦解。新たに実権を握ったクメール・ルージューは都市住民の強制移住、学校教育や市場、貨幣の廃止、親子の隔離といった、考えられないような政策を次々と実施した。その過程で多くの人が反革命分子の名の下に次々と虐殺された。

そんな歴史の負の遺産がプノンペンの郊外にある。トゥール・スレン博物館である。その時期、この国で何が行われたのか自らの目で確かめるため、私はその博物館を訪れることにした。博物館は、当時「S21」と呼ばれた監獄の中にあつた。建物の床や壁には、血痕が残り、そこで行われた拷問の惨さ、すさまじさを伝えていた。

歴史の「負の遺産」をこの目で確かめたいなどといった

気持ちはずぐに消し飛んだ。すぐその場から逃げ出したいなつたが、一方で考えた。「私たちは歴史に学ばなくてはならない。それが例え、目を背けたくなるような事実であつたとしても。そこからしか私たちは未来を始めることはできないのだから」と。

その夜、一人でメコン川のほとりに立つた。母なる大河メコンの流れはあくまで穏やかであつた。その穏やかさに、少し救われる思いがした。

人類史を歩く旅⑦ ウォーレス線

インドネシア諸島のほぼ中央に位置するロンボク島。現地の言葉で「唐辛子」を意味する「ロンボク」は、香辛料を求めて人々が行き来した歴史の交差点であつた。十五世紀の明王朝が、あるいは十六世紀のヨーロッパ列強が、コシウやナツメグ、唐辛子を求めてこの地域を往来した。

二〇〇四年、そのロンボク島を訪れた。マラリアの疫学調査が目的であつた。一方では、米国の歴史学者アルフレッド・W・クロスビーの著書「史上最悪のインフルエンザ」忘れられたパンデミック」の書評の締め切りを抱えてもいた。

当時、ハーバード公衆衛生大学院の特別研究員として「人類史と感染症」というやや哲学的なテーマを研究していたこともあつて、頼まれた書評。ロンボク海峡を望む海辺

で、一冊の本を片手に八十五年前、世界を席卷したスペイン風邪の流行に思いをはせた。

そんな時、ふと思い出したのが、この地を通過する一本の線であった。「ウォーレス線」である。A・ウォーレスが提唱したこの一本の線によって、この地域の生態系ははつきりと二分される。マラリア流行の様相も含めてである。

この海峡を挟んで何千kmと離れていた東西の島々は、何千万年という時間の中で地下プレートとの動きによって引き寄せられた。ウォーレス線はそうした地球史の名残を今に伝える痕跡である。

世界を席卷し、数千万人の命を奪ったスペイン風邪。何千万年にも及ぶ地殻の変動によって、いまだに異なる流行の様相を見せるマラリア。感染症と人類史、あるいは感染症と地球史。興味の尽きないテーマである。一人の研究者として、そんな思いを強くしたロンボクでの一日であった。

人類史を歩く旅⑧ 山の向こうはまた山

一八〇四年、世界で初めて黒人共和国として独立したハイチ。しかし、その歴史は苦渋に満ちたものであった。西半球の最貧国、感染症の宝庫、長く続いた独裁政権の国、崩れゆく国……。今もそんなありがたくない名前が付けられている。

成人の七%がエイズウイルス（HIV）に感染し、先天性梅毒で苦しむ子どもたちが後を絶たない。デング熱、マラリア、フィリリア症、流行性髄膜炎、新生児破傷風……。「感染症の宝庫」といった表現も決して大げさなものとはいえない。そんなハイチで医師として研究者として一年を過ごしたことがある。

そんな中で出会ったマリリスという女性は忘れられない。マリリスは市場で働く貧しい二十代前半の女性であったが、ある日、市場で豆の缶詰を盗んだという、いわれない理由で責められた。必死の思いで盗みを否定する。しかし、マリリスが倒れた時、周囲の人々は「缶詰を盗んだバチが当たったに違いない」とうわさした。病院へ来た時、マリリスはやせこけ、息も絶え絶えであった。

結核を併発したエイズというのが直感であった。私たちはマリリスに検査を勧めた。しかし彼女は「これでエイズとわかつたら、みんなに何と言われるか」と言って私たちの勧めを拒絶した。検査を最後まで拒否し、数カ月後、生まれた村で亡くなった。「神さま！わたしは何か悪いことをしたのでしょうか」。マリリスが最後に言いのこした言葉だという。

「山の向こうはまた山だ」。ハイチでの生活の厳しさを伝えることわざである。「山のかなたには幸せがある」と信じてきた私たち日本人。なんと違うことだろうか、その時思った。

レガッタは終わらない 〜盲目オアーズマンの独り言

平成十三年卒 ウイ・クアン・ロン

平成二十年二月、東海大学医学部付属病院小児精神科にて、私は一枚の診断書を受け取った。前もって述べておくが「成人精神科」でも「私が診断書を手渡した」の間違いではない。そこにはこう書かれていた「診断名…アスペルガー症候群」と。落胆も絶望も微塵もなかった。むしろ安心感と、「これでまたレガッタに参戦できる」という新たな希望が、僅かながらも感じられたからである。

アスペルガー症候群。広汎性発達障害、または高機能自閉症とも呼ばれる障害の呼称の一つである。DSM-IVの分類に表すと以下の通りになる。

- A、以下の少なくとも二つで示される、社会的相互作用の質的障害
- 一、視線を合せること、表情、体の姿勢やジェスチャーなどの多くの非言語的行動を、社会的相互作用を統制するために使用することの著しい障害
 - 二、発達水準相応の友達関係をつくれぬ
 - 三、喜びや、興味または達成したことを他人と分かち合うことを自発的に求めることがない（たとえば、関心あるものを見せたり、持つてきたり、示したりすることがない）

四、社会的または情緒的な相互性の欠如

- B、以下の少なくとも一つで示されるような、制限された反復的で常同的な、行動、興味および活動のパターン
- 一、一つ以上の常同的で制限された、程度や対象において異常な興味のパターンのとらわれ
 - 二、特定の機能的でない日課や儀式への明白に柔軟性のない執着
 - 三、常同的で反復的な運動の習癖（たとえば、手や指をひらひらさせたりねじったり、または体全体の複雑な運動）
 - 四、物の一部への持続的なとらわれ
 - C、この障害は、社会的、職業的あるいは他の重要な機能の領域において、臨床的に明白な障害を引き起こす
 - D、臨床的に明白な言語の全般的な遅れはない（たとえば、単語が二歳までに使用され、コミュニケーションに有用な句が三歳までに使用される）
 - E、認知能力発達または年齢相応の生活習慣技能、適応行動（社会的相互作用以外）、および環境への興味の小児期における発達に、臨床的に明白な全般的な遅れはない

F、診断基準は他の特走の広汎性発達障害や精神分裂病によつて満たされない

AおよびB、DおよびEに関しては私よりも私の同期か、あるいは私の先輩方や後輩たち（特に学年が近い方々）に聞いてみた方がより客観性があると思われる。Fに関しては診断が確定するまで七年かかったが、上記基準には一度も当てはまらなかった。これからCに関しての話をしよう。

大いに非難されることを承知の上で、全てを語るとしよう。その事により長崎大学医学部漕艇部の名簿から私の名が消えるのであれば、それでも構わない。では、言おう「私はボート部に所属した六年間の間、一度たりとも本気で楽しいと思つたことが無かつた」と。友達は一人も作れなかつたし、度々行われる飲み会は苦痛以外の何でも無かつたし、合宿が始まる度に西医体終了までの日数を指折り数えていた。

やはりボート部に魅かれ入部したのも「負けず嫌い」つて心意気だけは一致していたのであろう。上記の状態にて選手としても事務としても何の役にも立たず、一人孤立したも尚ボート部を引退するまでやり通したのは「大嫌いな自分に負けるのが嫌だつたから」なのであろう、卒業後、敢えて東京女子医科大学心臓血管外科教室の門を叩いたのも、心臓に興味があつたというよりかは「自らを逆境に晒すことで、自らの弱さ（と当時考えていた）を克服する」という目的があつたのであろう。

だが、本格的に試合の最前線で戦つていた（あるいは現在進行形で戦つている）皆様にはお分かりかと思うが、やる気だけじゃどうにもならない事がこの世には山ほどある。ボート部を引退した頃からその予兆はあつたのだが、女子医大に入局して二年目、遂に肉体的に「真性過眠症」という名で破綻した。心臓外科を続けることは不可能となり、つてを伝つて脳外科教室に転局したは良かったが、所詮「当直時間が多少楽になつた」程度でしかなかつた。

大学時代からずっとそうだったが、人の輪の中に入れない。正攻法でいっても、奇をてらつても、空元気を出していつても駄目だつた。何をどうやっても輪の中に入れない。いくら努力しても空回りで終わる場合が多く、且つ失敗は余計に目立つ。自分ではそんな意図は無いにも関わらず、あらぬ誤解が生じたりする。抗議行動に出ると皆との更に距離が遠さがり、飲み込むと自らの自己嫌悪をより増強させる。当然、精神的にも破綻してしまい、脳外科としても当然やつていけない。

その後、成り行きで人間ドック医となり、現在に至る。そう、私は現在医師としては八年目にあたるが、実質はその半分以下である。分かりやすく言うと「通勤↓破綻↓休職療養↓リハビリ」という名目の研究業務」という事を何度も繰り返していたため、八年間で臨床の現場にいたのは四年にも満たないのである。今年二月にアスペルガー症候群の診断を受けた後でも、数種類の薬物を用いて辛うじて人

間ドックの業務が務まる程度で、病棟業務については事実上不可能に近い、といつても差し支えないであろう。

アスペルガー症候群（及び自閉症）には別の呼び名がある。それは「心の盲目」である。通常の人とは口で言っている事や文面に記されている事以外に、そこから伺い知れる「心の眼」で見える何かを見抜き、それに合わせて行動するのであろう。その「心の眼」が良く見える人間が、俗に言う「世渡り上手」と呼ばれるのかも知れない。ここで「だろう」とか「らしい」とか「かも知れない」という言い方をするのは、私自身見た事がないからである。

生まれつき「眼」が見えないから相手の姿が分からない、という事は「自分がどんな「格好」をしていて、それが他人の「眼」にどう写っているのかを理解する術が無い」という意味でもある。それを無視しては、人の輪の中に入れないに決まっている。ましてや「以心伝心」「阿吽の呼吸」を重視する日本社会において、これは致命的とも言えるであろう。当然、シングルスカルを例外とすれば、ボートなんてまともにも出来るはずがない。

転機が訪れたのが、他ならぬ冒頭で記した診断書の行である。今まで抱えていた悩みの中の最も大きい一つが「自分がおかしいのか、あるいは組織や社会に問題があるのか」であり、その答えが出たからだ。つまり「変なのは私の方だった」という結論である。ならば答えは簡単だ。無理して健常人に合わせようとしたり、健常人になろうという無

駄な足掻きを止めてしまえば良いのである。何て言うか心の視力。障害者として堂々と振舞えばいい。ボートに例えると、オリンピックに出られなくても、パラリンピックを目指せば良いという事である。

パラリンピックに「ボート」という競技がないのと同様、私自身もこれからどうするかは全くもって未定である。ただ、六年間ボート部にいて、たった一つだけ学んだことがあり、それだけで今までやっていけたし、これからもやっていける、そんな気がするのである。その教えとは「絶対にオールから手を離さない」である。

もうご存知かと思われるが、オールには人一人浮かばせられるだけの浮力があり「緊急時にはオールに掴まる」というノウハウを教えられる。それは「引退後のレガッタ」でも同じ事なのだと思う。唯一の違いは「引退後のレガッタでは、漕ぎ続けている限り試合は終わらない」という点であろう。切り込もうが、靴が脱げようが、シートを外そうが、チンしようが、果ては艇から投げ出されようが、オールを手にはしている限り溺れない。何度でも整え直して、再度蹴り出せば良い。

かつては棺桶に片足突っ込んだ事すらもあつたが、オールの浮力のお陰で助かった。今度また新たに始めるレガッタでも多分色々あると思うだろうが「自分が何者かが大まかに分かっている、尚且つオールから手を離さなければ溺れることはない」という確信だけあれば十分。スタートは

大幅に出遅れたけど、まだレガッタは終わっていない。

このレガッタの結果が何位で終わるかは分からないし、知った事じゃないが、一度スタートしたらゴールまで漕ぎ通す。当初の予定からは大幅に狂ってしまったが、このオアーズマンとしての信念だけは譲れない。今はただ、その事を教えてくれた我が長崎大学医学部漕艇部に対する感謝の気持ちで一杯としか言い様がない。長文乱文大変失礼いたしました。

P・S その一

大学在籍時お世話になったOBの先生方、先輩方、同期のみんな、後輩たちへ。

今まで多大なるご迷惑をお掛けしまして、大変申し訳ありませんでした。

P・S その二

現役部員の皆様へ。

「西医体優勝」の吉報、楽しみにしています。

《活動報告》

◆昨年度主将挨拶◆

四年 大橋 和明

平成二〇年度漕艇部主将の大橋和明と申します。前主将としてこの場をお借りして昨シーズンを振り返りたいと思います。大会毎の詳しい状況はボックス記にてご報告が成されていると思いますので、ここではシーズン全体を通じた部の状況を記したいと思えます。

西医体の結果に代表される通り、シーズンを通してAクルー始め、各クルーは満足いく結果を出す事ができませんでした。先生方の期待に応える事ができず申し訳ありません。私は主将としてAクルーのローヤーとして重大な責任を感じております。

一番大きな原因は怪我・故障であったと思います。特にAクルーは最後はローヤー四人のうち、三人が大きな故障を抱えてしまいました。私自身も元から腰痛持ちでしたが、Aクルーである以上、試合結果について絶対に怪我を理由にすることは許されないと考え、怪我とうまく付き合っていく方法を常に模索して参りました。練習前後のストレッチの徹底や、整形外科や整骨院の先生への相談などAクルー

ーだけでなく、部全体に体のケアの周知を試みました。しかし、結果としては昨シーズンよりもはるかに多くの故障者が出てしまい、十分な練習ができないことが度々ありました。特にAクルーは西医体まで二週間を切った所で怪我（ローヤーの腰痛及び背部痛）の更なる悪化を招いてしまい、練習を中断しては痛み止めの注射を打ちにいくという事が何度もありました。シーズン中で一番追い込んだ漕ぎ込みをしなくてはならない時期にこのような形で十分な練習ができなかった事が大きいと思います。試合のわずか二週間前ということと簡単にメンバール入れ替えに踏み切る事もできず、なんとか最後まで漕ぎきろうということになりましたが、やはり練習不足のハンデを埋め合わせる事ができませんでした。

特にAクルーは日常的に非常に激しい練習を数カ月続けるので、無傷を期待するのではなく怪我とうまく付き合っていく事、具体的には練習を妨げない程度に抑える事を理想としていましたが、残り数週間をもたせる事ができませんでした。

また今年には新人フォア出漕クルーにおいても肋骨疲労骨折などの怪我人が出てしまい十分な練習ができませんでした。

例年よりももつと体のケアを大切に考え、故障者ゼロを目指していたにも関わらず、このような結果になってしまったのは主将である私の責任であり、長年の活躍を期待し

ていただいた先生方に本当に申し訳なく思います。

今後はもう一度練習方法や、ストレッチなどを見直し、西医体後に発足した新幹部率いる次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

それに加え、当然漕ぎ方自体も見直す必要があります。故障者がゼロだったら勝利できたかと自分に問い掛けると、一〇〇%勝てるとは言い切れないのが正直な所です。もちろん練習が不足してしまつては絶対に勝てませんが、他大学に体格では及ばなくても充分に戦つていけることはこれまで多くの先輩方が示してきて下さいました。

今後、昨シーズンを改めて振り返ると同時に、次のシーズンに向けた練習内容や改善策を積極的に取り入れ、限られた時間の中で少しでもより良い結果が残せるよう、先生方により良いご報告ができるよう現役部員は精進したいと考えておりますので、今後とも見守って下さいますようお願い申し上げます。

◆新主将挨拶◆

三年 北村 健二

昨年の西日本医科学学生総合体育大会において長崎大学医学部は一般シエルフォア、新人シエルフォアともに決勝に

進出できないというここ数年ではもつとも悪い成績に終わりました。OB皆様方の期待に応えることができなくて大変申し訳なく思っています。この場をかりて深くお詫び申し上げますと思います。部員一同この苦い思いを忘れずに来年の大会に向けてしっかりと頑張つていきたいと思ひます。

この結果を受けて部員一同で反省をしてこれまでの練習を見直しいくつか改善を行うことにしました。一つ目に練習後のストレッチの強化です。昨シーズンまではストレッチは各個人に任せてストレッチをやつていたため、個人によつてストレッチのメニューも時間もばらばらであったり、練習後のストレッチをおろそかにしていたため怪我人を続出させる原因になっていました。これからは怪我を防止するためストレッチのメニューを新しく作り練習の前後にクルーみんなでストレッチをすることにしました。二つ目にモーターボートを使ったビデオ撮影や外部からの指導の強化です。昨シーズンはモーターボートの故障もあり外部からの指導が難しく艇速が思うように伸ばすことができなかった原因であると考えられるため、今シーズンは引退された先輩方をお願いして積極的に行つていきたいと思ひます。三つ目にミーティングの機会を増やすということです。これまでの練習前後のミーティングに加えて全体ミーティングや自分たち漕ぎのビデオを使ったミーティングを行い部の一体感・クルーのイメージの統一感を高めていきたいと思ひます。これ以外にも変えるべき点は変えながら

も、先輩方が築き上げられた伝統はしっかりと守っていき
たいと思います。

今後強いボート部を復活させ、そしてそれを守り続けて
いけるように現役部員一同一生懸命努力して参りますので
温かく見守っていただけたら幸いです。最後になりました
が、OB皆様方のご健康とご多幸をお祈りして挨拶とさせ
ていただきます。

◇新入生紹介◇

朝野 寛視

まったくボート部らしくないかつこい外見だが、ボ
ート部に迷いもなく入部。なんでもガチムチになりたいので
入部したらしい。エルゴのタイムも着々と上がってきて
るのでかなり期待してるよ!!

(文責 川口)

上瀧 善邦

福岡県私立明善高校出身の気立てのやさしい現役生。好
きな女性のタイプは女性歌手の持田香織。ボート部との
馴れ初めは以下の通りだ。大学に入学して間もない頃、新
入生を勧誘しようとするボート部員達がいた。そんな折り
に彼は勧誘クルーの始動早々にボート部員によってさらわ
れ、仕上げに大橋前主将に口説き落とされ、今にいたる。
当初おとなしそうで私は思っていたが、あれよあれよとい
う間に素晴らしい運動能力や飲み能力を発揮し、今ではそ
の漕ぎ(飲み)に頼もしさを感じるほどである。今もスト
イックに練習(飲み会)に打ち込む姿には脱帽である。将
来はボート部を引っ張っていく人材となるのは間違いな

い。これからも頑張れ、上瀧！

(文責 水野)

大井隆之介

北陽台から来た熱い男、呼ばれて飛び出て大井君です。皆さん、彼を見かけたらオーイと呼んでみましょう。キョトンとした顔で振り返ってください。

この男、熱いです。乗艇ではどんなにきつくてもしつかりとした返事が返ってきます。「粘れ〜」「はい！」「ハインドレベル！」「はい！」「整調キャッチ止まんない！」「はい！」…、大井君、君は三番でしょう…。たまに聞いてない時もありますが、そこはご愛嬌ということ。

もちろん陸に上がっても熱いです。体育館でしょっちゅう筋トレしています。おかげで立派な肉体をお持ちです。この肉体をボート部の中だけで眠らせておくのは勿体無いと思っていたところ、先日T野氏に上半身裸の写メを学年メーリスで回されたとのこと。これで学年内にも大井の肉体美は知れ渡ることとなりました。良かったね、大井君！大井も将来を期待されるローヤーの一人なので、これからもしつかりと練習して、長大を背負って行ってほしいと思います。

(文責 松浪)

丹下 寛也

今年、入部した新入部員、いや入学した新入生のなかでも異彩を放つ漢(おとこ)、そう、丹下善也だ。この男、練習中はその細い腕を折りそうにしながら、しつかり水をつかんでくるあたりにボートセンスを感じさせ、たとえ先輩であろうとも、へボい漕ぎでもしようものならビシバシダメだする、まさに平成生まれの日本人、NOといえる日本人なのだ。

入部したときは、あまりにも突然、酔った勢いで入部した感があったため、心配する声もチラホラあったが、今や一年生のなかで、もっとも熱い(ネギ)男とよんでもいいかもしれない。今年の西医体は、直前の故障のためにCOXとしての参戦であったが、真性Sの才能を存分に活かし、四、五年生まで容赦なくしごくあたりに大物の香りをプンプン臭わせる。

そんな彼の、名言をいくつか紹介したい。

「猛獣使いは猛獣より強くなくてはいけないですよ！」
一流の猛獣使いは、ライオンや熊を素手で殺せるくらいの戦闘力をもつ、このように、一流のCOXは、Rower以上にうまい漕ぎが出来なくてはいけないってのが、丹下流…。

「一流の縄使は、身体でなくて心を縛るんですよ…」

SMの真髄は、心を縛ることにあるってのが、M〇A倶楽部を西医の旅館で、読破していたスーパースァーティストの

丹下流…。

「じゃ、文次郎で!!」

筋トレ、エルゴの後は、とりあえず蛋白質補給が基本！
そんな丹下の、定番メニューは、うまいとんかつ、文次郎の
のロースかつ大。決して安くはない、いやかなり高額なこ
の店のこのメニューを、先輩の養育費で思う存分味わうの
が丹下流…。しかも、キャベツは全く食わず肉だけを味わ
うのも、丹下流…。

いろいろ書いたが、奴の魅力はここでは、書き尽くせない。
…。食っても食っても太らない体質(若干病的)といい、
そのSぶりといい、そして、類まれなるポートセンス、将
来の鳳翼(Aクルー)のO×は奴しかいないだろう。こ
れからも、天に向かつて伸びるネギのように、頑張れ！丹
下寛也！そして野菜食えよ!!

(文責 藤田)

三瀧 正秀

三瀧が入部宣言をした日のことである。飲み会のあとに
二次会でカラオケに行ったとき三年の僕に「何で先輩服を
着てるんですか？」とやって服を脱ぐよいに強要してきた。
一年生にまさか服を脱ぐように言われるとは思ってもしな
かった。すごい奴が入ってきたと思ったのを今でも覚えて
いる。

こんな感じで飲み会ではいつもうまく人に飲ませ大活躍
している。彼に潰された人は何人いることか…。これから
もしつかり飲み会を盛り上げてもらいたい。
ポートの方でも持ち前の負けん気でいつも頑張ってい
る。これからの活躍に期待したい。

(文責 北村)

二〇〇七年度試合結果報告

●九山

レースNo.1 対校男子舵手付きフォア決勝

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 熊本大学 (龍神) | 三分五八秒三六 | 一位 |
| 4 | 長崎大学 (鵬翼) | 三分五九秒二二 | 二位 |
| 5 | 宮崎大学 (日向) | 四分〇一秒一五 | 三位 |
| 2 | 産業医科大学 (焯牙) | 四分〇四秒九六 | 四位 |
| 3 | 佐賀大学 (雷光) | 四分〇五秒二一 | 五位 |

●九朝

レースNo.1 男子舵手付きフォア決勝

- | | | | |
|---|------------|---------|----|
| 6 | 日田市役所・日田高校 | 四分二〇秒七三 | 一位 |
| 4 | 熊本大学 (龍神) | 四分三二秒六〇 | 二位 |
| 1 | 熊本学園大学 | 四分三七秒七二 | 三位 |
| 5 | 九州大学 (疾風) | 四分三八秒六〇 | 四位 |
| 2 | 長崎大学 (鵬翼) | 四分四五秒〇八 | 五位 |
| 3 | 宮崎大学 (日向Ⅲ) | 五分〇七秒八三 | 六位 |

レースNo.2 ナックルフォア決勝

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | CLUB今造 | 二分〇一秒〇五 | 一位 |
| 5 | 佐賀・宮崎選抜 | 二分〇四秒四四 | 二位 |
| 3 | 河内ローイングクラブ | 二分〇八秒一五 | 三位 |
| 2 | 長崎大学 (雄図) | 二分十一秒八四 | 四位 |
| 6 | 宮崎大学 (不死鳥Ⅲ) | 二分二四秒八一 | 五位 |
| 4 | 唐津市役所 | 二分四〇秒四七 | 六位 |

レースNo.3 男子シングル決勝

- | | | | |
|---|---------|---------|----|
| 1 | 今治造船 篠原 | 四分三四秒五六 | 一位 |
| 2 | 今治造船 藤川 | 四分三四秒七九 | 二位 |
| 3 | 長崎大学 古賀 | 四分三六秒五〇 | 三位 |

蓋世 男子舵手付きフォア
崎陽 ナックルフォア

準決勝進出
準決勝進出

レースNo.1 男子舵手付きフォア決勝

6	滋賀医科大学(暁)	三分一八秒二二	一位
5	熊本大学(龍神)	三分二〇秒七六	二位
2	浜松医科大学(湍)	三分二五秒七九	三位
4	京都大学(芝蘭)	三分二六秒二七	四位
1	長崎大学(鵬翼)	三分二六秒八四	五位
3	大阪大学(TRISTAN)	三分二七秒三九	六位

レースNo.2 新人男子舵手付きフォア決勝

6	佐賀大学(魁偉)	三分四三秒八三	一位
2	熊本大学(白虎)	三分四五秒十一	二位
1	滋賀医科大学(高林族)	三分四六秒七八	三位
5	熊本大学(神威)	三分四七秒二九	四位
4	京都大学(メタボ先生)	三分四七秒八六	五位
3	長崎大学(崎陽)	三分五七秒四二	六位

レースNo.3 男子シングルスカル決勝

5	長崎大学(古賀)	三分五九秒九七	一位
6	滋賀医科大学(滋賀医科大学B)	四分〇二秒七六	二位
4	熊本大学(松風)	四分〇八秒六四	三位
3	滋賀医科大学(滋賀医科大学C)	四分一六秒一六	四位
2	京都大学(操紅)	四分一六秒六二	五位
1	岡山大学(明星)	四分一九秒六五	六位

蓋世 男子舵手付きフォア 準決勝進出

二〇〇八年度試合結果報告

●九山

レースNo.1 対校男子舵手付きフォア決勝

1	佐賀大学 (雷光)	三分二五秒一八	一位
3	熊本大学 (龍神)	三分二八秒一九	二位
5	長崎大学 (鵬翼)	三分三二秒五八	三位
4	宮崎大学 (日向Ⅲ)	三分三三秒三九	四位
2	産業医科大学 (煌牙)	三分四四秒五九	五位
6	佐賀大学 (魁偉)	三分三九秒四五	

(オープン参加)

レースNo.2 一般男子舵手付きフォア決勝

3	佐賀大学 (魁偉)	記録なし	一位
6	長崎大学 (崎陽)	記録なし	二位
1	熊本大学 (白虎)	記録なし	三位
5	熊本大学 (神威)	記録なし	四位
2	長崎大学 (雄図)	記録なし	五位
4	佐賀大学 (浮立)	記録なし	六位

●九朝

レースNo.1 男子舵手付きフォア決勝

6	山口大学 (維新)	三分四〇秒三八	一位
3	熊本大学 (龍神)	三分四〇秒七五	二位
4	長崎大学 (鵬翼)	三分四三秒一六	三位
5	熊本学園大学	三分四六秒八三	四位
2	宮崎大学 (日向Ⅲ)	三分五四秒八一	五位
1	山口大学 (羅漢)	三分五六秒二一	六位

レースNo.2 ナックルフォア決勝

3	松山大学	一分五九秒六六	一位
6	産業医科大学 (ラマティ)	二分〇六秒八一	二位
1	唐津市役所	二分一〇秒二〇	三位
4	新菱A	二分一二秒八四	四位
5	長崎大学 (雄図)	二分一九秒五〇	五位
2	宮大医学部 (アフロ)	二分二五秒八六	六位

蓋世 男子舵手付きフォア

予選敗退

崎陽 ナックルフォア

準決勝進出

● 県漕

鵬翼	三分四三秒六八	一位
蓋世	三分五一秒二三	二位
崎陽	四分一三秒六四	三位
雄図	四分二一秒〇一	四位

レース No. 2 一般舵手付きフォア決勝

4 滋賀医科大学(暁)	三分一一秒七〇	一位
5 浜松医科大学(湍)	三分一四秒二五	二位
1 熊本大学(龍神)	三分一四秒八五	三位
3 京都大学(芝蘭)	三分一七秒四九	四位
2 宮崎大学(日向Ⅲ)	三分二〇秒三七	五位

● 西医体

レース No. 1 一般舵手付きフォア順位決定戦

2 大阪大学 (TRISTAN)	三分〇九秒四三	一位
3 長崎大学 (蓋世)	三分一一秒二一	二位
1 長崎大学 (鵬翼)	三分一四秒五二	三位
5 佐賀大学 (雷光)	三分一九秒四七	四位
4 大阪大学 (ASTRIA)	三分二〇秒〇九	五位

崎陽 新人男子舵手付きフォア 予選敗退
 普賢 新人男子舵手付きフォア 準決勝進出

2007年度COKX記

Aクルー記

九山

Aクルー（松岡、上木、大橋、中原、濱口）

スタートローイングで宮大に半艇身リードされる。熊大は一番端のレーンでよくわからず。早めに宮大に追いつきたかったので二五〇で足蹴り入れるが、追いつけず。五〇〇でも入れるが追いつけず。八〇〇からの二枚あげでようやく艇に一体感ができて伸びだす。宮大をさし、熊大とは並んでいるかやや自分たちがリードしていると判断し、とにかくゴールまでこの感じで上げていこうと指示をだす。しかし結果はほんの少しの差で熊大に敗れ二位。

今回の大会では一本の押しでは熊大に負けていると感じたのでこれからはコンスタントの一本でもっと艇を進ませることに重点を置いて練習していくことにした。個人的には最後熊大との差をとっさの判断で正確に認識できず、さらにそれを漕ぎ手にうまく伝えられなかったので、そういう意味ではコックスとしていい試合経験になった。レースでのコックスの役割はとて大きいと認識した試合だった。

九朝

Aクルー（松岡、大橋、上木、中原、濱口）

九山後、艇の漕ぎのリズムを改善するために今まで三番の大橋と今まで整調だった上木を入れ替えての練習を行ってきた。そのため、イタリアンリガーでの出場となった。

予選

レース中にラダーが壊れ、艇がまっすぐ進まず、一方のサイドは弱く漕いでもらうことを余儀なくされた。もちろん、これでは漕ぎが合うはずもなく三位。ただ、レース中は自分自身なぜ艇がまっすぐ進まないのか全くわからず、艇をあげた後に初めて気づく。自分を含めて漕ぎ手全員にレースに対しての不安感が残ってしまった。この状況で予選を突破できたのは不幸中の幸いだった。

準決勝

本日は一日で準決勝・決勝の行われ、昨日のクルー全体の雰囲気を変えろという意味で一本目のレースはとても重要なものだった。かなり緊張もあった。しかしスタートすると前に艇はいない状態だった。だが、逆に漕ぎ手が今までになかった光景にとまどい、中盤から他の艇に追い上げられるのにあせってしまい、リズムが合わなくなっていく、終盤で日田市役所に抜かれ、二位。

このクルーは去年のBクルーがそのまま持ち上がったの

だが、今までレースは後半型だったのでスタートでであるという状況になれていなかっただのである。コックスはこれを修正するために春からずっとスタートを意識させてやってきたので、この試合でスタートが修正されつつあるのを実感し、うれしく思った。とりあえずこのレースでクルーの雰囲気は良くなり、決勝に期待がかかった。

決勝

スタートはほぼ横一線。しかし、足蹴りなど全然きまらず、徐々に遅れをとるようになり前半半艇身以上の差をつけていた大学にも抜かれ、五位に終わる。波も半端ないほど強くてびしょぬれになり、結果も駄目で最悪だった。しかも、このレースでは今度はレース序盤でコックスのマイク音が入らないというありえない事態が実は起こっていた。(トップコックスなのでもちろん僕はそのことに気づくはずもなく、レース中指示をだしまくっていた)このため、クルーが一体になるはずもなく、なすすべなく敗れてしまった。

今回の九朝は同じクルーで去年三位だったこともあり、優勝を狙って練習を組んできた。しかし、大会で三レースをして(当たり前なのだが)漕げたのは準決勝の一本だけで、不完全燃焼であると同時になぜこんな不幸がちょうど試合でしかも二回も起こってしまったのかという行き場のない胸苦しさがクルー全員に残り、しかもおそらくそこま

で実力を卑下する必要もないのに心の奥底で弱気な気持ちで心にできてしまった。今だから思うのだが、この九朝のこのレースが西医体の最後まで悪影響を及ぼしたのだと思う。九朝後は他のクルーと並べる機会がないため、自分たちの力を客観的にとらえにくい。九朝が本来この役目をしていたのに本大会で自分たちの漕ぎができないまま終わってしまった、自分たちの力の位置がわからずこれ以降ある意味手探りの中で練習せざるをえなくなった。この大会で優勝とはいかないが、ある程度の結果を残せていたら西医体では違う結果がでていたように思う。

ただ、今回不運にも起きてしまった艇の不備については猛省する必要があった。これまでこのような前例を聞いたことがなかったとはいえ、コックスの責任であり、艇の整備を怠ってはいけないと肝に銘じた。今回のアクシデントの原因は鵬翼を購入してから一度も交換してこなかったことによるマイクの配線の老朽化とラダーは通常の手入れ不足だった。よって鵬翼の細かなパーツをほぼすべて新品に換えることをこの後行なった。

県漕

Aクルー(松岡、大橋、上木、中原、濱口)

九朝では明治安田生命の監督がセミナーを開催された。その際の情報を部員全員で共有し、Aクルーでももう少し基礎から作り直すように努めた。

予選

スタートと同時に相手が見えなくなったので、決勝ご同日であることも考え、足蹴りや二枚あげは極力使わずにいた。

決勝

スタートからとばすという意識でやり、足蹴りをいつものように三回入れ、スパートも入れた。優勝したものの喜べるタイムではなかったが、今シーズン初めてまともなレースができたという気持ちだった。

西医体

Aクルー（松岡、大橋、中原、上木、濱口）

九朝後から第三者に艇の速さを見てもらうことに努めてきた。コックスとしての自分の感覚と回りからの客観的感覚とを一致させる必要があると感じていたからだ。ほんとに艇は速くなっているのか、ナーバスといえる程この点に關しては気をつけてやってきた。回りも協力してくれ、週末には五、六年生がモーターボートに乗って練習を見てくださる時もあり、時にはコックスをしてもらったりと先輩方の協力にはとても感謝しています。漕ぎとしてはとにかくもつと重い水をとり、それを最後までひききることに重点をおいてやってきた。漕暦の最も長いバウの濱口の前の上木と中原を交代させたりしながら個々のスキルアップも

はかった。

西医体前はほんとに西医体で勝てるのか不安な毎日だった。

予選

スタートローイングで浜医にキャンパス差リード。二五〇過ぎで最大四分の三艇身リード。しかし、五〇〇過ぎからじりじりと迫られ、七五〇過ぎででられ始める。八〇〇から二枚上げで追い上げるもそのあとのスパートが決まらず、三分の一艇身差で負ける。

負けはしたが、スタートに対して自信がもて、さらにもつとコンスタントを我慢してやっていけばもつといけるという確信がうまれた。クルーも久しぶりの一本を終えてほつとした感じだった。二位。

準決勝

予選であたった浜医とまたあたるということで、予選の反省を生かしてスタートで、でてそのリードをしつかりコンスタントで粘ってキープするという作戦でまとまった。実際レース本番でもスタートでキャンパス差リードし、五〇〇までに半艇身のリードを奪い、ラストもしっかりあげ、追い上げをかわした。作戦通りのレース展開をできまさに会心のレースだった。準決勝であるにもかかわらず、ガッツポーズをしてしまった。それくらい嬉しい待ち遠しい勝

利だった。クルーの雰囲気も上がり調子でまだまだやれる気がした。

決勝

スタート集中すると最後のスパートは早めに入れる作戦で決まった。

しかし、スタート二本目でミスり、トップの滋賀医大、二位の熊大に遅れをとる。しかし、他はまだ横一線だった。とにかく三位を目指した。横の浜医に中盤キャンパス差ずつとでられていて浜医を抜くことに集中した。一番端のレーンだったということもあってレーンの中に藻が流れ浮いていてそれに一漕ぎとられてしまうこともあった。結局スパートでも他の艇ほど伸びず、五位に終わってしまった。決勝を戦ってみて、やはりほんとのほんとの本番でミスをしたら負けるということを実感した。今年のAクルーは期待されながら結果を残せなかつたので大変申しわけない気持ちでいっぱいです。正直まだまだこんなもんじゃないという気持ちがあると同時にやはり力が足りなかつたという気がします。勝負の世界は甘くないです。でも、アクシデントが重なる中みんな必死に耐えて頑張ったと思います。

Bクルー記

三反田 拓志

九朝 予選

遠賀川の恐ろしさを知る。蓋世はトップコックス艇であるが、前から荒れ狂う泥色の遠賀川の水が口へと入ってきて、コールや指示が途切れる。このバランスの悪さとバタつきはクルーのせいなのか、それとも遠賀のせいなのか。スタートからかろうじて宮崎を抑えての一位。最後のスパートはあつて無いようなものだった。宮崎が借艇でなかつたことを考えると…。しかし一位は一位ということにしてクルーは盛り上がる。一位の素晴らしさは〇〇だとまた別物だ。

準決勝

またしても宮崎と力ち合い、ふたたび三位を巡り、競り合う。蓋世は自艇なのに何故競り合うのかを少し考えたが、遠賀の水で現実に引き戻される。再びラストスパート。しかし大きく崩れてしまい、最後の最後に宮崎に指されてハ位。ここに散る。ラストスパートの練習が不十分だったための事故だろう。しかし、これは通過点ということので気を取り直して今後の練習について考えることにする。

県漕

九山から数ヶ月ぶりの試合であり、シートチェンジしてから始めての試合でもあった。メンバーは九山以来変わっていないものの、二年生三人という技術的に不安な一

面があつた。そこでシーズン途中で、四年生であり、前年にAクルーの三番を漕いでいた友延さんを三番に据え、艇のリズムを重視することにするを決める。本来ならばBOWにのつてもらい、前二人の技術を見てもらおうとするのが普通だが、一人で三人見る負担により、友延さん自体の漕ぎが損なわれる大きなデメリットを考えれば仕方ない。

実際の漕艇場のコースは設営のまずさから一二〇〇m程であつた。予選では一位で通過できたものの、スタートの失敗、途中からの失速により相手に助けられた感は否めなかつた。そして、一二〇〇mは通常の一〇〇〇mとはまた違つた感覚であり、五〇〇m通過のコースを間違えたりして自分にも責任はあつただろう。

決勝では当然勝ち上がってきたAクルーと当たることになる。スタートでは食らいついたがローイングが伸びない。そのままAクルーとの差がじわじわ開いていく。四〇〇mあたりで入れた脚蹴り五本から艇速が伸びる。脚蹴りが終わつても伸びる艇速を維持。しかしAクルーとの差を少し縮めるもののバランスを崩し失速。再びAクルーとの差をつけられる。最後までじわじわと引き離され、そのままゴールして二位。途中から船の動きが大きく変わったのはおそらくしつかりした技術とそれを維持する体力が足りなかつたからだろう。かなりがっかりするが、思ったほどAクルーと差がついていながつたことに逆に不安を覚える

大会となつた。大会後、シートチェンジは間違つていないことをクルーで確認しあい、西医体に向けての意識を高める。

西医体

西医体直前には体重は六九キロから六二キロへと落としたが、それでもまあ〇Xとしてはかなり重い部類に入る。身長一七七cmなんて〇Xの体重計量においては注目の的だ。本当に絶食とかしたらもつと体重落ちたかもしれないけど、そこまではしなかつた。体重に関してはクルーには申し訳ないが、勘弁してもらいたい。

西医体にしてはコース設営の雑さにおどろいた。ブイは一〇〇m間隔(通常は一〇m)、一〇〇〇mの狙いは小さな旗(通常はかなり大きいレーン番号入りの看板)。そして琵琶湖に生い茂る藻、藻、そして藻。一レーン側に行くほど藻が生い茂り、正直な所、これほどレーンによつて差のあるレーンが存在するのかもしれない。今期から〇Xについていて、何もかもが始めての世界で、かなり心細かつた。とりあえずコース内を走行することを優先することにする。指示やピッチコールを忘れたりしたら……と考えて正直、前日のホテルではあまり寝れなかつた。

予選

予選D組は四の二上がりで、良いところであるが、相手は

熊本・龍神、そして大阪・TRISTANとかなりの強敵と当たる。彼らは当然決勝に残るだろうから、どちらか片方に勝てば決勝は確実だ。とりあえずどちらかを目安に行くことにする。スタートではばたつき、龍神が飛びぬける。レーンをはさんだTRISTANを横目に見ながらコンスタントパドルに入る。ローイングで思いのほか伸びない。すぐにTRISTANの脚蹴りのコールを聞いて入れ返すも差をつけられる。龍神とは一艇身差。徐々に伸びる他二艇にあせる。結局最後までバタつきが取れずに、自分たちの漕ぎができないままゴール。コースを真つ直ぐ走れたのは良かったが、しかし、それ以上に艇速の伸びなさにつかりする。明日は気を切り替えていきたい。

敗復

コースに一〇mブイが入り、ようやくコースらしくなる。Aクルーが準決勝に駒を進めており、BクルーがAクルーと当たらないためには、敗者復活のタイムで一位か三位になることが条件となった。当然一位を狙いにいく。気持ちも高まる。スタート。上手く決まり少し抜ける。岡山と大阪が後に続く。ローイングも決まる。かなり手応えを感じる。気持ちも大分楽になる。五〇〇mを一位で通過。大阪は見えない。岡山がまだ食いついてくる。ピッチを維持しつつ、岡山が少しでも並んできたなら、即脚蹴りと二枚上げで突き放すことにする。ラスト二〇〇m。岡山のスパート

コールを聞く。やばい。すぐさま上げようとするが、なかなか上がらない。焦る。ラスト一〇〇mを切った所で急に艇速が伸びる。やつとか。ふたたび頭抜け出しそのままゴール。結果を見てみると、Aクルーと当たらないことが分かり、安堵。

準決勝

予選で当たった熊本、大阪、そして前年優勝の滋賀と当たる。スタートからバタつき、例によつて最後までバタつきが取れない。またしても自分たちの力を出せぬまま終わる。結局僕はAEDとなれないままに、ローヤーがバタつくの救えなかつた。一番最悪のシナリオとなる。スタートは最も大切であることを実感する。自分の力のなさにつかり。

順位決定戦

前日のことが頭をかすめる。スタートはまずまず。大阪と宮崎が速い。ついていこうとするが逆にじわじわと引き離される。脚蹴りに失敗し大きく崩し、かなり艇速を落とす。三位からすぐさま岡山に差され、四位。その後佐賀と競り合うが、落ちた艇速が戻らず、ラスト二〇〇mで佐賀にも差されて五位。無念。さすがに終わった後はローヤーに対してかなりイライラしてしまう。罵声をあびせようかとも思った。今思えば大人気ないがまあ許してください。

コックスはとてつもなく難しく、そして大変なことを実感するシーズンでした。クルーには恵まれたと思います。技術の吸収はなかなか遅かったけど、聞き分けが良く、これからきつと学んだことを活かしてくれるに違いありません。ひとつ言うとしてればローヤーがかなり受身すぎたのもっと自発的になつて欲しかったけど、自分も手探りだったことを考えると、頼りないCOXに写ったから、といわれるかも分かりません。ごめん。来期はCOXにならないとだろうけど、もつとしつかり後輩のもてあました頭を使わせたいと思います。

Cクルー記

東 祥嗣

九朝

今回は初めてのコックスとしての試合ということで、非常に緊張した。今までコックスにまかせつきりにしていた出廷の準備などにてこずりアタフタしてしまった。

試合は、あまり練習していなかったためノーワークスタート。レートは二五前後だった。予選は三番が二五〇mくらいでシートを外し、漕ぐのをやめてしまったり、パウも終盤でシートを外したり、あまりうまくいかず四位で敗

復にまわってしまった。敗復では大きなミスも無くどうにか準決勝にいった。二日目、準決勝、スタートから佐賀宮崎選抜がでて、遅れて宮崎大学不死鳥3がつづく。そのあとを崎陽が追う展開になった。不死鳥3は残り一〇〇mで明らかにバテはじめ、崩れたので、させるかと思つたが、こつちもおもつたほど体力が残っておらず、不死鳥3との差を少し縮めてそのままゴール。やはりノーワークスタートだったのが敗因だった。練習を始めてまだ二週間ぐらいの一年生が始めてのレースで悔し泣きをしていたので、これからの成長が楽しみである。自分も色々と研究して西医体ではうれし泣きが出来よう練習させていきたい。

県漕

一年生にとつては初めての一〇〇〇mの試合。また、自分にとつてもコックスとしてのシエルフォア一〇〇〇mのデビュー戦だった。今年は例年と異なり、新人艇が一艇だったためライバル艇がいなかった。

当日の形上の海は思ったほど荒れていなかったのよかつた。レースは予選三の二上がり。不安だった艇付けはスムーズにいき、どうにか落ち着いてレースに望めた。予選は、スタートでパウサイドがエアロしあまり加速しなかつた。ローイングも、二〜四本目まではスタートのミスをひきずつていた。五本目から艇は安定してきたが、両サイドですつていたり、慌てているのが目立つ。コックス

も最初曲がってしまったのをもとに戻そうとしてラダーを切り、そんなことが続き、かなり蛇行させてしまった。予コンスタントに入ると、一位の鵬翼とはかなり離れ、もう一艇と二位争いをする事になった。終盤明らかにスタミナで勝てず速は落ちたが、どうにか決勝に進めて良かった。決勝は予選よりもうまくいったが、他の三艇と離れすぎてモチベーションが下がりローヤには勢いが感じられなかった。

西医体まで約二ヶ月。悔いが残らないために今からできることを最大限やっていきたい。

西医体

例年は西医体直前に合宿をやり、追い込みをかけるのだが、一年の試験のため合宿が出来ず、合宿での地獄を見ることなく西医体に突入した。このことが少し不安だったが、ある程度クルーとしてまとまってきたので、去年ぐらいの成績はいけるだろうと安易に考えていた。琵琶湖は波や風もあり、決しているコンディションではなかった。

西医体予選、二レーンから順に、崎陽、蒼龍（佐賀）、コンピラ（大阪）、重徳（金沢）、メタボ先生（京都）。スタートでメタボ先生が1艇出る。そのあとに重徳と崎陽がつづく。メタボ先生とはほとんど離れていく。敗復には絶対まわりたくないため、重徳をさそうと六五〇m付近で足蹴りをいれ、ポール分だけでた。九〇〇m付近で二段階スパ

トの二回目をかけたが、くずれてしまい、重徳にさされてしまい、三位で敗復にまわってしまった。山崎は敗復にまわらずに二段階上げにより少し伸び、どうにか

西医体敗復

一レーンからMETA（金沢）、浮立（佐賀）、崎陽、蒼龍（佐賀）、コンピラ（大阪）、玄海（福岡）。スタート直後、浮立が急に突っ込んできて、オールがあたりというハプニングが起き、もしかしたらレース侵害かと思って慌てた。レース自体は、予選で失敗したスパートを二枚上げにすることで上手くいき、敗復1位で準決勝にいった。

西医体準決勝

一レーンからトリスタソ（大阪）、穂積（大阪）、B地区（大阪）、メタボ先生（京都）、魁偉（佐賀）、崎陽。スタートから、佐賀と京都がでて、どんどん離される。三位争いをB地区、トリスタソと崎陽がする展開となった。五〇〇m付近までに二回足蹴りをいれ、どうにか四位を保っていた。六〇〇mになると五位まで下がってしまった。無茶苦茶だが、ここで負けられないので、六五〇mから二段階スパートを一回目をかける。ここで半艇身差あったトリスタソをさし、八〇〇m付近でスパート二段階目の二枚上げをかけ、三位で一艇身差はあったB地区を抜き、どうにか三位で決勝にいった。

決勝

スタートから一艇だけおくれ、ずっと後ろを追う展開となった。結局、五位とは一〇秒ほど離されてしまった。完敗だった。敗因は、今年は新人艇が一艇のみだったため、ライバル艇がいなくて、自分らがどれくらいレベルなのかわからずやっていた事だと思う。ただ、一年生はポテンシャルは高いのでこれからどんどん成長して、今回の悔しさをいかして頑張ってくれると思う。自分も今回の悔しさを来シーズンに活かしていきたい。

〇七年主将を終えて

四年 瀨口 陽

去年の九月から漕艇部の主将をさせていただきました。結果は西医体五位でした。毎日一生懸命練習し、ある程度の手ごたえを持って望んだ試合だったのですが、結果が振るわず残念でした。西医体の決勝ともなると、どのクルーも死ぬほど練習してきています。実力も拮抗しています。勝つには実力はもちろんのこと、怪我などせず自分達のコンディションをその試合に最高の状態にもっていけるかが大事だと思いました。運ももちろん大事です。いろんな要素がかみ合った時、優勝できるんだと思いました。キャップ会で滋賀の人と話していても、コースのことを気にして

いたり、天候、流れ、いろんなことを気にしていました。やはり勝つためには、ボートの技術だけでなく、その試合を最高のものにするために、多くのことを考え、練習から前日まで、多くのことに気を配って試合に臨まなければならないんだと思いました。

また、主将をやっていて、人をまとめることの難しさ。組織を運営することの難しさを学びました。多くのことを学んだ一年でした。勉強になりました。皆一年間俺を支えてくれてありがとう。

松岡、大橋、上木、中原、二年間同じ艇に乗ってくれてありがとう。本当に楽しかった。

来年はAクルーのローヤーが三人も残る。ぜひぜひ悲願の優勝をしてほしい。頼んだぞ。

〇〇八年度 COX 記

Aクルー記

東 祥嗣

九山

今季初の試合である。今年は普段の九山とくらべ期間が一ヶ月ほど短く、練習量が絶対的に足らなかった。

あいにくの雨とレースがつまっているため借艇のリギングに時間がなく、かなりあわてたけりだしとなった。

予選

熊本、佐賀との三艇レース。試合慣れしていないせいも、普段と全く異なる漕ぎをしだす。ローイングからピッチがおちず、四枚ぐらゐの高さでコンスタントに入った。明らかに一本一本で伸びない。七〇〇mまでに佐賀に一艇身、熊本に半艇身つけられる。一上がりだったため、七〇〇mで二枚上げをいれるとバウサイ切れ込み艇が止まる。敗復がきまつた。

敗復

熊大、久留米、福大との四艇レース。四の二上がりなので決勝に行くのは難しくない。なので、一日三レースおこなわなければならぬから、コールはなにもかけなかった。今回は気持ちに余裕があったからか、普段のレートでゆつたり大きくこげた熊本に一艇身つけて一位でゴール。

決勝

本日三本目。一レーンから佐賀、産業、熊本、宮崎、長崎となった。スタート二本目三番エアロしコンスタントの入りで全艇にキャンバス差つけられる。そのためあせり、予選のような漕ぎがまたおきる。コールでどうにかレー

トは普段より二枚高い状態まで下げられたが、明らかにあせっている。佐賀、熊本にはなされ、宮崎に一艇身つけられる。七〇〇mすぎで二枚上げにより少し伸び、どうにか宮崎をぬき、三位。

ここまで精神的に弱いクルーだとは思わなかった。これから試合慣れし、練習で自信がつくようになっていきたい。

九朝

相変わらず、コンディションが悪い遠賀川。横波がげしく、まっすぐ走らせるのが大変なレースとなった。

予選

スタート失敗し、山口大二番艇に半艇身ほどでられる二位。横波とレーンのゆがみのため大きなブイをたたかせてしまい、勢いにのれない。五〇〇mすぎ、ようやく四人があつてくる。七五〇mスパートで山口大学を抜き一位でゴール。

決勝

雨がやんだ分、予選よりはコンディションはよくなった気がする。スタート、熊本にでられ、五〇〇mじりじりになされる。この間ずっと二位で、どうにか五〇〇mすぎからリズムにのりだす。七五〇m過ぎスパートかけ伸びだしたが、山大一番艇に一気に抜かれる。熊大とは差が縮まっ

たが追いつけず、三位となった。スタートをもう少し早くいれておけば、と思つた。あと、スタートから勢いに乗れないと勝てないことがよくわかつた。

県漕

コンデイションは非常にいい。ただ、明らかにレーンが一〇〇〇mを超えているのがきになるが。県漕は身内だけのレースのためモチベーションを上げるのが難しいレースである。

九山、九朝では四人が合うのに時間がかかつてロスが多いこぎとなつていたが、県漕では、試合慣れしてきたため、スタートからミスがない漕ぎがはじめてできた。Bクルーとはコンスタント入り時点で見えなくなったので、差はわからない。ただ、逆に勢いがおちていた気がする。二本こいだが、内容はあまりかわらず。身内だけの試合だったが、課題が残るレースとなつた。これからは、一本の質をあげつつ、体力をつけて西医体では後悔しないようにしたい。

西医体

とうとう四万十川までやつてきた。ローヤ四人のうち三人が何らかのけがをし、追い込み時期の合宿も予定の三分の一しか練習できず、遠征前日のししがわレガッタもできなかつた。正直不安が残る。スタミナは大丈夫だろうか：

予選

スタートで京都に出られ、二五〇m付近で半艇身ほど出られ五〇〇m付近を二位で通過する。腰の不調なローヤがいたため、あまりスタート練ができていなかったことを後悔する。コンスタントは勢いがいい。県漕での反省をいかして練習したつもりが直前の練習不足でもとに戻つていた。そのままじりじりとはなされ二位でゴール。敗復にまわつた。

敗復

対校艇の敗復にまわるという情けない結果になつてしまったが、もう負けられない、と思いのぞんだ敗復。しかし、なにかいやな予感はある。スタート、佐賀の二番艇が飛び出し、長崎と宮崎が追う展開。ここでまさかのバウが二本連続のエア口。やはり不安は的中した。ふざけるな、対校艇だぞとぶち切れそうになるが、二艇に一気に離され、三位になり、あせる。五〇〇m過ぎ佐賀の二番艇をさしスタートで宮崎をさそうとするも、キャンバス差を縮めることが出来ず二位。

準決勝

今まで最悪だったが、ここはしっかり勝ちたいと望んだ準決勝。五の二あがりで厳しいレースである。今回はスタートから勢いを出していくことを確認しけりだした。スター

ト、ほとんど横一列。五〇〇m付近で浜松医科大が一艇で
るが、あとは四艇並んでいる。若干だが、長崎がキャンバ
ス差でていると思つた。七五〇m付近一位浜松、五位大阪
で残り三艇はどこが出ているかわからなかった。五位の大
阪もキャンバス差しかない。スパートかけるが、どの艇も
同じタイミングでスパートが入る。最後はスタミナ勝負と
確信した。だが、長崎はのびない。最後は四艇混戦だった
が、五位で終わった。ここで練習不足を後悔する。

Bクルー記

九州朝日レガッタ

Bクルー結成直後のレースだったため、勝利を求められる
ような練習もできず、結果予選敗退、敗復でも惨敗だった。

県 漕

Bクルー結成一ヶ月後の試合で何とか試合になるくらい
にはなつたが、Aクルーに勝てるということもなく、収穫
も少ない試合となつた。

西医体

予選A組

- 1：重徳（金沢） 2：蓋世（長崎） 3：暁（滋賀）

4：ASTRIA（大阪） 5：魁偉（佐賀）
スタート直後は他の艇とダンゴ状態だったが、ローイン
グ終わって二五〇mくらいになると横の滋賀が半艇身リ
ドしていたが、他の艇は見えなかった。ゴール時はちよ
ど滋賀と一艇身差くらいで二位だった（三分一九秒二八）。
滋賀と一艇身差以内を意識して練習してきたので、今回
レースで自分たちのクルーの力の位置がイメージできたの
で大変意義のあるレースだった。

敗復A組

- 1：重徳（金沢） 2：TITAN（大阪） 3：蓋世（長崎）
4：ASTRIA（大阪） 5：青洲（和歌山）

準決勝で当たりのいい組に入るためにもタイムを狙いに
いくことが一番の目標だった。

レースは終始リードしゴールすることができた（三分
三八秒五一）。

自分たちの狙い通り、敗復で一番のタイムを出すことが
できた。

準決勝A組

- 1：雷光（佐賀） 2：蓋世（長崎） 3：暁（滋賀）
4：龍神（熊本） 5：ASTRIA（大阪）

四万十川は五レーンなので、決勝に確実に出るためには
二位以内が必須なレースだった。

スタートローイングで滋賀が頭一つ抜け出したが、熊本とは並んでいた。しかし、中盤でジリジリと離され、結果三位。しかし、滋賀とは四秒、熊本とは一秒差で、自分たちとしても力を出せた感があった。

順位決定戦

- 1：鵬翼（長崎）
- 2：TRISTAN（大阪）
- 3：蓋世（長崎）
- 4：ASTRIA（大阪）
- 5：雷光（佐賀）

スタートローイングでキャンパス差 TRISTAN に出られる。足蹴りを随所にかけるが、最後までこの差を縮めることができずに二位（全体で七位）でゴール。

今シーズンを振り返って

そもそも今シーズンのBクルーは例年と異なり、ゴールデンウィーク後に結成された。結成当初から西医体での決勝進出を目標としたが、それにはクルーとしての練習量が不足していた。また、経験の浅いローヤーが多く、ローヤーには短期間での技術習得が求められた。そのため、必然的に練習はきついものとなった。COXとしては今までの経験を生かして、工夫して練習を組見立てた。ローヤーの皆がよく頑張ってくれたおかげで、西医体前には何とか決勝で戦えるレベルにまで仕上げることができた。しかし、五レーンしかないという漕艇場の理由上、あと一步のところまで決勝進出を逃してしまった。来シーズン以降先のある後

輩に西医体の決勝という舞台に立たせることができなかったのはCOXとしては大変申し訳ない気持ちだった。この経験を糧に、来シーズン今年Bクルーに乗っていたメンバーが奮起し、西医体で大暴れしてくれることを期待している。

Cクルー記

九朝

試合の一週間前に朝野が熱発、さらには入院してしまい、急遽代わりに友延にお願いして乗ってもらうこととなった。

一年生にとっては初めての記念すべき試合である。短い二週間という練習期間で基本的な動作、コックスからのコール等、試合にまでに覚えてもらうことは多くあったが、なんとかノーワークができるところまでの状態にもっていき、出場となった。

予選

私がコックスの用事で大会本部に出かけ、戻ってみるとなにやら応援に来ていたOBの西山先生がウキウキされている。話によるとどうやらユニホームを持参されているそう。そういうことで、予選はC上木、S西山先生、3丹

下、2大井、B梅田で出場することになった。レースは、産業医科大学が一艇抜きんでていたが、ノーワークスタートが成功し、整調の西山先生のアツい漕ぎに引つ張られ、難なく二位で予選通過となった。その後、先生はなんと部員全員の昼食代を払ってくれた。ほんとにありがとうございます。いました。

準決勝

このレースでは優図と同じ組み合わせに入った。さらに予選のタイム的にどちらか勝ったほうが決勝に進出すると予想されたので、クルーのみんなはかなりの気合をいれて試合に臨むこととなった。しかし、レースではスタートがあまり決まらず、ピッチを上げてその分を取り戻そうとしたが、整調のシートが外れてしまい、シートが再びはまった時には雄図に大きく水をあげられていた。その後、一艇は抜き返すことができたが、三位で終わってしまい、決勝進出とはならなかった。

県漕

今年は九朝が終わってから、一〇〇〇mを始めて漕ぐことになる県漕までの期間がたったの一週間しかなく、新人クルーにとつてはとても悩ましい試合となった。基礎を固めるためあえてこの試合に向けた練習をしないことも考えだが、一週間毎日練習を入れ、付け焼刃ではあるがスター

トローイング、足蹴りなどを練習して試合に挑んだ。また朝野がダウンしていたためC梅田、S上木、3丹下、2大井、B友延と九朝と同じクルーメンバーでの参加となる。

今年は他の団体のシエルフォア部門には他の団体のエントリーがなかったため、身内のみの一発決勝の四艇レースとなった。レース展開はスタートが思うよういかず、ローイングが終わった時点では雄図とほぼ並んだ状態であり、二五〇メートル地点で一回目の仕掛を入れるも少し出る程度までしか伸びなかった。しかし、その後じわじわとコンスタントで雄図を離していき、五〇〇・七五〇メートルの仕掛では一本ごとの伸びを出すことができ、勢いのある漕ぎを保ったままゴールすることができた。

今回の試合前の一週間の練習は入部して間もない一年生にとつては過酷なものだったかもしれないが、真摯に練習に励めばその分だけ成長することができるという経験ができたのは良かったと思う。へろへろになりながらよく頑張ってくれた。

この後無事に朝野も復活を遂げ、本来のクルーメンバーで練習を再開することになる。それまでの間、崎陽に尽くしてくれた友延にはこの場を借りて感謝したい。ありがとう。

九州朝日レガッタ新人ナック(予選)五〇〇m

OBの西山(平成十九年卒) 先生が本人の希望により急

遽、乗ることになった（整調）のでこのレースに限り、私
がコックス記を記す。

スタートはノーワークスタートで、二位グループで混戦。
一位の艇には新人はいないようで最初からかなりリードさ
れる。整調の調子は上々。

そこから、フィニッシュにかけて強調するように指示を
出し、艇速が伸びる。さらに、他の艇が失速していき、二
位でゴール。

引退するとバックを取りすぎるなど、フォームが崩れる
先輩も多い中、整調の昔と変わらぬキャッチからの大きな
漕ぎが光った。

Dクルー記

九朝 予選

スタート直前、整調は緊張の様子。スタートはスムーズ
に押せてはいたが、レートが予定よりも遅く、ほぼノーワー
クスタート。後、レートを二五に上げ、自然と二七まであ
がる。宮崎大学が一艇身出たところで足蹴りを入れる。そ
のとき私がレーンを間違えて、宮崎と進路が重なる。その
直後、宮崎の整調が腹切り、そして接触。一旦艇を停止さ
せ再スタート。四位以降に大差をつけて三位でゴール。私

の操舵の未熟さが出てしまったが、ローヤー自体の漕ぎは
よい。決勝進出も不可能ではないと思う。予選ではスター
トで出られて、すべてが後手に回ってしまったので、スター
トの練習をすることにした。スタートで先行して、レース
全体をコントロールすることを目標にしたい。

準決勝

準決勝の組合せは崎陽とあたることになった。スタート
がよく決まったが、一〇〇m地点で松山大学と一艇身差の
二位。三位崎陽とも一艇身くらいか。二五〇m地点で三番
が軽く切れ込むが立て直す。三〇〇m地点で単独の二位と
なったのでローヤーに落ち着いてペースを落とすように指
示。そのままゴール。決勝進出。

決勝

スタートで整調ペアがエアロ。出遅れて一〇〇m地点
で六位。足蹴りを五本いれてスピードを上げるが、追いつ
くまでには至らない。二五〇m地点で宮崎大学整調が腹切
り。停止したのでこれをパス。三五〇m地点で足蹴り五本
いれる。疲れのためか、崩れ始めてなんとかゴール。五位。
決勝での着目点は西医体で対戦するであろう宮崎大学との
現時点での比較であった。結果では勝つことができたもの
の、一本一本の水中の押しの強さでは負けており、さらな
る練習の必要性を痛感した。

県 漕

スタートが合わず、出遅れる。スタートスパートを五本追加し、コンスタントに入るころA、Bクルーには離され三位。Cクルーより少し出ているよう。二〇〇m通過。まだバタついていてる。ストサイが大きく負けだす。四〇〇m地点でCクルーと並ぶ。二回目の足蹴りをいれる。ここから大きく崩れ、キャッチがバラバラに。ストサイは大きく負けている。七〇〇m地点で一艇身差の四位。徐々に離されゴール。四分二一秒。蛇行を審判に注意される。四レーンでストサイ側に仕切りがなかったことが幸いした。練習でできていたことが全く出せなかった。また課題がたくさんできたので、これを次回からの練習で改善する。

西医体

予 選

スタートは練習通りのを出して、ローイングからコンスタントに入るころ、産医とキャンバス差の二位。半艇身後ろに浜松。そこで産医が崩れたので足蹴りを入れる。ここで伸ばすことができず、そのまま五〇〇m通過。ここから離されだす。六五〇mで浜松に並ばれ、スパートも伸びず、最後は浜松と一艇身差の三位。

敗者復活戦

スタートは予定通り。京都大学と並んでいる。このまま

我慢比べに突入。五〇〇m手前でどうもローヤーがつからう。京都のペースが上がり、それについていけず、最後は一艇身差の二位。ここで敗退かと思われたが、各敗復二位の中でタイムが一番良いという条件で準決勝に進出することになった。

準決勝

スタートから他クルーについていけず、コンスタントでは何をしても差は広がるばかり。五位でゴール。

部員雑感

雑感

六年 笠原 優人

ボートを引退してはや三年経ちました。現役の部員を見るとよくあんなに毎日練習をやったなと自分でも驚きません。

さて、今年スポーツの祭典であるオリンピックが行われ、僕自身もさまざまなスポーツをテレビで観戦しました。残念ながら衛星放送の映らない我が家ではボートの試合を観戦することができませんでしたが、ある雑誌で中国のボートに関する記事を読みました。それは中国が、オリンピックでの種目が多く（ダブル、シングルなど）、メダル数の多い競技であるボートに力を入れているという内容で、中国のボートの強化選手として選ばれた人の中には、ボート未経験でボートという競技さえも知らなかった人もいたということも書かれていました。環境としては最高で、ボートだけに専念できるような練習環境が用意されており、また練習をするだけで高収入が得られるようでしたが、選手のインタビューでは 練習はきついけど、仕事だからがんばっている というコメントが書かれてあり、選手がボ-

トを好きでやっているとはあまり思えませんでした。中国の選手の競技に臨む切迫した表情の理由が分かるような気がしました。結果としてアテネオリンピックでは〇個だったメダルが、今回は金メダル一つ、銀メダル一つを獲得しています。

僕は四年間のボート生活でしたが、OBの先生方の支えのおかげで何不自由なく練習をさせていただき、とても恵まれた環境でボートをすることができ、また僕自身もボートが大好きで漕ぎ続けることができたことは本当に幸せだったと思います。現役の皆さんにもこの環境に感謝し、またきつい練習の中でもボートを楽しむ気持ちを忘れずにがんばってもらいたいと思います。中国の選手のように仕事の結果を残す ことも大事だと思えますが、ただ結果を残すよりも、競技を愛し、みんなで一生懸命練習に励んだ上での結果のほうが大事なのではないかと思えます。引退するとつい結果に期待はしてしまえますが…。現役の皆さん、後悔のないようおもしろい練習に打ち込んでください。

ラスト雑感

六年 小松 直広

今、卒業試験の真っ最中です。ちようど今日で一週目を

終えました。そんな中、雑感なんて書いてる暇ないよ〜と
思いながらも、今までのことを振り返りながら書いてます。
いよいよこれで雑感を書くのも最後になりました。これ
で最後になると思うとなかなかしみじみとした気分になり
ますね。六年間、長かったような短かったような。でもやっ
ぱりボート部との思い出が一番心に残ってます。

一年生の頃は、右も左も分からない状態で、でもだから
こそ楽しかった。今ではやれないこともたくさんしたし、
お酒もいっぱい飲んだ。そしていっぱい潰れた。

二年生になると、解剖とボートの練習に追われる毎日で、
ストレスが溜まる。いっぱい飲む。そしてまた潰れる。

三年生の時には、腰痛のためCOXに転向。毎日緊張し
て練習していた。暗黒時代。

四年生。教育クルーを任される。COXにも慣れてきて、
だんだん楽しくなる。日野と一緒に一年生の扱いにてこず
る。昔の自分を思い出す。先輩方、ごめんなさい。最後の
西医体、今までで一番熱かった。風の向こう側に行けた気
がした。そして引退。やったぜ！

五年生。朝練もなく、毎日ゆとりのある生活を送る。映
画をいっぱい観る。そろそろ勉強会なんかやってみたいす
る。ボート部と疎遠になり、ちよつと寂しい。

六年生。クリクラも終わり、マッチング、卒業試験、国
家試験と大人の階段を登っていく…。

とまあ、こんな感じで六年間があつという間に過ぎて

いったわけです。まだまだボート部との思い出はいっぱい
ありますが、これ以上書いてしまうと、卒業試験に落ちて
しまいそうなのでこの辺りで終わらせていただきます。
最後に、お世話になりました先輩方・先生方、今まで本
当にありがとうございました。

雑感

六年 長 哲太郎

今年の夏は暑かった。本当に忙しくて、全くと言ってい
いほど、テレビを見なかった。そんなこんなで北京オリ
ンピックが終わり、その総括を新聞で拾っている卒業試験期
間に僕はいる。

夏休みの間、後輩から言われる「もう卒年なんですな」
という言葉。というか自分でも六年生であることがわか
信じたがいまま、学生最後の夏が終わる。

ざつと六年間を振り返ると、いろいろあつた。いろいろ
あり過ぎた。しかしなんとと言っても、ボートの幹部学年を
やった時は一番記憶に残っている。コックスとして情報収
集に走る毎日。パソコンに電源を灯しては、「早い船はい
ねえか？」と他大や個人のサイトを訪ね歩いていたそんな
ある日。ある言葉と僕は出会った。とその前に、実は僕は、
新歓コンパや追いコンで話される丹羽先生のボートのお話

が好きだったりする。人生への教唆を含んでいるからだ。ということ、僕が出会ったその言葉は……

「ボートを漕げ。人生がわかる。」というものだった。彼いわく、「ボートは後ろ向きに漕ぐだろう。前が見えないだろう。人生なんてものも前が見えない。ただ横目に流れる景色で今、自分が走っていることが分かる、そんな程度だ。」と。「問題は、今この筋肉が悲鳴をあげているかどうかだ。」とその文章は締められていた。

「なんとということだ。」思わず僕はつぶやいた。

前置きが長くなってしまったが、人生がレースに例えられることは多い。ボートのレースは、先行する艇を下目の標的にできないだけに、自分との戦いになることもままある。仮にこの八〇年という月日を一〇〇〇mのレースに換算してみたら、僕のいる位置は三〇〇mを過ぎたあたりだ。その昔、先輩に「スタートスパートで何となく四〇〇mまで行けるし、七〇〇m過ぎたらあとはワーって言うってどうにかなるやろ。だから頑張ればいいのは四〇〇〇七〇〇の間だけやん。」と言われたことがある。じゃあ、生まれて三三歳までは何とかなって、五六歳から死ぬまでは「ワー」って言って生きていけるのかということは大いに疑問であるが、四〇〇〇七〇〇m。他の艇が落ちていくのを必死に我慢して待つというその時期が僕にも迫っているわけである。思えば、生まれてからそこそこの時間が経ってしまったものだ。

ロサンゼルスオリンピックが行われた一九八四年が僕の生まれた年であるが、ちょうどこの次のオリンピックがソウルで、その時にパラリンピックが同じ場所で行われるようになった。卒業試験期間中にパラリンピックが北京で始まったというニュースが取り上げられている。このパラリンピックの起源は一九四八年のストック・デビルマン病院で行われたアーチリー大会ということである。先の第二次世界大戦で脊髄を損傷した兵士達が参加したという。多くの苦難を乗り越え、競技をする選手達を見ていると本当に励まされ、感動する。六年次の病室実習では形成外科と整形外科を選択させてもらって、障害を乗り越える前の患者さんに出会ったこともあるが、それだけに躍動する選手達の姿に感動する。スポーツは人を励ますなあと思う。

今年の六月にあったアイアンマンレースin五島にもメデイカルスタッフとして参加して、ゴールで選手にタオルを掛けたり、フラフラの人に静脈ルートを取ったりしていたが、アイアンマンたちが、最後に家族を引き連れられたり、子どもを肩車しながらゴールする様子は「いいなあ」と思った。

ということ、我慢の三〇代から四〇代にかけてのいずれかに僕はアイアンマンレースin五島の完走に挑戦しようと考えている。大学時代コックスとして、自分を肉体的に追い込むことは少なかったが、クルーメンバー達のソフトMな感じの笑顔を思い出すと、自分も頑張れそうだと勇

気付けられている。

最後にこのような稚拙な文章を書いても掲載してくれるであろう漕艇部部誌に心から感謝しています。おわり

雑感

六年 日野直之

もう六年となり、あと半年で卒業となりました。半年後には働いてるなんて、まだ実感がありません。とりあえずは卒試・国試にむけ勉強に励んでいきたいと思えます。マツチングは長大で出す予定なので、これからもボート部と関わる機会が数多くあると思います。研修中にボート部員に出会おうのを楽しみにしています。部活のイベントにも余裕があれば顔を出していきたいです。

雑感

六年 江頭 崇

気づけばもう六年も半ばを過ぎ、卒業という言葉が現実味を帯びてきた。思えば二年前の同じ頃、ボート部を引退して一つ大きな転機がきたのだと感じたのを思い出しま

す。引退してしまうとなかなか運動する機会がなくなつて、初めの頃はジムにかよつたりしていたのだが最近夏に海に行つたきり全く運動していない。ボートという競技は、気軽に出来ないのが大きな欠点だとつくづく思います。特に書くことが思い浮かばないし、試験がまだまだあるので頑張つていきます。みんな頑張ってください。

雑感

五年 梅田 雅孝

五年目の西医体を終えて感じたことをここに記そうと思う。

我々長崎大学医学部漕艇部は日々西医体で勝つことを意識してトレーニングに励み試合に臨んでいる。対抗艇はもちろん過酷な練習日程をこなし、近年のBクルー・教育クルーの練習量も生半可なものではないはずだ。しかし、ここ数年の西医体において納得のできる成績を残すことができたクルーは決して多くはないはずだ。

なぜ練習量をこなした上で、結果が伴わないのか。五年間の自分自身の経験を振り返ってみると今まで気づかなかつたことが、最後の西医を終えた後になって見えてきた。一年・二年の教育クルー・Bクルー時代は右も左も分かつたらず、先輩方に怒鳴られながら、ただただガムシヤラに日々

の練習に喰らいついて来た。三年になりBクルーの持ち上がりで対抗に乗せていただいたのだが、五月くらいまではずっと、自分の漕ぎに対するコンプレックスに悩み、一回一回の練習が終わり艇から降りるたびに自己嫌悪に落ちいつていた。この時までには自分の漕ぎの上達に対する「飢え」を常に抱えながら練習に挑んでいたと思う。だが、乗艇や試合を重ね徐々に自分の漕ぎに対する自信を獲得していくにつれ、消えていったものがこの飢えであり、西医前には自己嫌悪に苛まれることはそうなくなったが、試合に挑んだ結果、悔んでも悔やみきれない負けとなった。

この後の四年生の時は教育クルーとして新入生を育てることになったのだが、このときはもはや一年生の指導に明け暮れ、自分の漕ぎは二の次となっていた。そして、西医ではなんとか決勝には上がったものの、その時のビデオに残る自分の漕ぎが未だに忘れられない。とても見られたものではなかったからだ。「対抗に乗っていたし、もう四年なんだからぼちぼち漕げるやろ。」心のどこかにそういう不甲斐無い気持ちがあったからだろう。このビデオを見た時は一年前の負けに匹敵する悔しさが込み上げてきた。

自分の漕ぎに対する飢えを忘れ、アグラをかいてしまった時点でローヤーとしての成長は終わってしまう。先輩・同級生・後輩からの指摘はもはや耳に入れなくなり、一人よがりの漕ぎになったあげく、自分なりにハードな練習量をこなしたつもりで試合に挑んでも結果が伴わない。

さきほど述べた、ある程度自信がついてくるとふっと自己嫌悪から解放される感覚は程度の差はあれ誰しも感じたことがあるに違いない。Aクルー経験者でも、初めのうちは持つていた「対抗に乗せていただいた」という気持ち、自分の漕ぎに対する飢えが、「俺、対抗に乗ってるし」みたいな妙な自信に変わった時期があるはずだ。もちろん、プライドを持ち日々の上達を実感しなければトレーニンングに対するモチベーションは上がらないので、練習にならない。しかしながら周りの仲間に対する謙虚さはもちろん、自分に対する謙虚さは、学年や乗る艇が上がりプライドが上がりやすくなる割には保ち続けることは困難なのではないか。

対抗時代、負けを喫したのち、長い間その理由に辿りつけなかった。しかし、今までのことに加え、五年目のクルーの中で感じた不満や違和感を試合後の打ち上げでグラスを傾けながら反芻し、行き着いた答えがこれである。

次の言葉はポリクリ中にある人から聞いた言葉だ。「本当にプライドがある人間は、状況に応じてプライドの加減を調節できるヤツだ。」

自分に対するプライドを貫き通した結果西医体優勝まで行き着いたヤツもいるし、ここで述べたことに対しては賛否両論があると思う。(注：決して彼に謙虚さがないというわけではない!)ただ、五年目という本来ありえない

シーズンをポリクリ中、身を粉にしながら参加した老輩のせめてもの言葉だと思つて、漕ぎに対する飢えと謙虚さを心の隅においてもらえれば幸いである。

おもいで。

五年 友延 寛

「五年になり、ついに、ポリクリが始まりました。」こんな出だして始まつてるのは松岡君と梅田君かな？ポリクリはじまりました。卒後のことも徐々に考えなくてはいけない時期にもなってきました。そのため最近図書館でこそこそ勉強してるんですが、ふと見回すとポート部員がいます。松浪君、東君、藤田君、北村君です。「あいつらも、幹部かあ、はやいなあ」としみじみ感じます。自分も、高橋さん達が引退した時は、「いよいよ幹部か。一年後は俺たちも引退か…」と考えていたものです。今は高橋さん達は卒試の真つ最中です。(九月六日現在)一年後は俺らも試験だなあ。雑感ほ早めに書かないとなあ、なんて思ってます。卒試・国試頑張ってください!!

話がそれました。時間の流れって速いっすね、きつい時はあんなに長く感じるのに、終わってしまえばあつという間を感じてしまいます。

たまに、物思いにふけると、Aクルーに乗っていた

時のことを思い出します。ガッコの授業中、オールとグリップのピンを支点にした軌跡を定規で丁寧を描いたこと、フォワードをイメージしてクイックイッなんてしたこと、ヤン車なBbである高橋さん、焼き畑?の煙にむせる江頭さん、ロードスターからロードレーサーに乗り換えた長さん、タケノコを持つてきた梅田。Aクルーのときの思い出が一番鮮やかに残ってます。

今を一生懸命頑張ってください。俺も頑張ります。

最近

五年 濱口 陽

最近ポリクリをまわっている。行く科行く科でその科のよさが分かる。将来自分は何科に進むんだろう。そんな事を考えたりする今日この頃。もうすぐ学生でいる時間もう少ないなと思ったりもする。勉強しよつと。

雑感

四年 岩津 伸一

四回目の西医体が終わったが、まだ何か物足りない。今年COXをやったが、これが想像以上に難しい。来年は

もつとうまくやれると信じている。がんばる。

雑感

四年 上木 智博

ボート部に入り四年が経ちましたが、ボートを知らない人に「ボートってなに??」って言われると、うまく説明できません。それだけに、他大学の学生や医師であっても「ボート部」って言われると親近感が沸き、ボート部で無くてもボートを知っている他大学の学生と話をするとちよつとうれしくなります。これは、野球とかサッカーのようなメジャースポーツだとちよつと味わえないのかなと思います。

まさに、自分のアイデンティティーの一部です。

四年目を終えて

四年 大橋 和朗

ついに引退しちゃいました。入部以来、D→C→B→Aクルーと順序良く：三、四年次はAクルーで二シーズン：夕方週末もない生活からやつと脱出したわけですが、いざ何もなくなると本当に何も無い。引退直後は五時過ぎに

ビクツと起きていたけど、最近はそれすら無くなりました。朝練はもうないんだけど、九時過ぎるとどうしても眠くなり、日が昇るともう眠れなくなってしまう。今までのかにかにボートしかない生活をしていたかよくわかります。しかし、何もないのも楽じゃないですね。何かしなきゃって気持ちばかり焦る毎日です。

しかし、先日みんなで飲んだときに聞いたところでは、僕も十月からのクルーに普通に組み込まれました！送迎役付きで。なんだかホッとした自分がいたことに少し驚きました。今までがむしやらに打ち込んできて、もう漕げないとも思っていたのに、ボートのこの不思議な魅力って何でしょう??

今は体を壊してしまっているのでコックス転身の様ですが、いつかまたローヤーとして復活してやる！などと思っている今日この頃です。

雑感

三年 東 祥嗣

西医体も終わり、試験に追われている今日この頃。テスト勉強で忙しいのに（めんどくさいので）後回しにしていた雑感に苦しんでいる。毎度のことながら書くことがない。なので、今年の減量について書こうと思う。

二月、某日の飲み会で正式に○○になるとわかった時
体重が六三kgあった。身長が一七二cmの僕にとつて六三
kgは少し軽いぐらいで、見た目落とす脂肪などない。○○
の体重は艇に乗ればただのおもりであるからデッドウエイ
トである五五kgマイナス一〜三kgにしとくのがベスト。こ
の日から減量がスタートした。

まず、何事も計画から。目標は五四kg。試合前日は絶食
するとして、四万十川に入るまでに五五〜五六kgにしとけ
ばいいかな。一ヶ月に二kg落とせば余裕だろうと漠然と計
画をたてた。内容は食事制限と運動。朝、昼は普段の食事
の半分にし、夜はがつがつ食べる。夜は量を減らすと寝れ
なくなるから。運動はランニングとかつて流行ったピリー
ズ〇ートキャンプに時々筋トレ。もともと細かったウエ
ストがピリーによって七二→六五cmまで細くなり、ズボン
がベルトなしでははけない。三月の九山では五八kg、前日
の絶食で五七kgまでなった。ここまでは順調だった。しか
し、ここから減らない。運動しても食事制限しても五八kg
をいったりきたり。確かにもう落とす脂肪はない。体脂肪
もとうの昔に一〇%をきっている。じゃあしかたない。肉
をおとす！筋トレによって維持されていたささやかな大胸
筋を手放し、走って維持していたしよもない大腿の筋肉
を捨てた。それによって四万十川では五四kgになっていた。
最後はマラスマス。人って本気になれば瘠せれるんだなあ
と身をもって感じた。

現在、増量に励んでいる。目標は十二月までに六五kg。
しかし来年の八月はまた五四kg。来年は減量成功だけな
く、レースでも結果を出したい。

雑感

三年 北村 健二

入部して三年目となり幹部学年になった。時間が経つ
がとても早く、とうとう今年が現役ラストイヤーである。
今シーズンは西医体で決勝に行けず悔しい思いをしたの
で来シーズンは西医体で決勝に行つて自分たちの漕ぎ
をして優勝したい、いや必ず優勝します！そのためにお
シーズンからしっかりと頑張つていきたいと思えます。

雑感

三年 藤田 拓郎

この雑感を書いているということは、まだ僕は中国共産
党の暗殺者から殺されていないということであるようだ。
最近、何かにつけて中国批判を繰り返しているようで、部
内では、完全に反中国思想家と思われているようだ。そん
な中国といえ、今年には北京オリンピックが行われた。僕

が修学旅行で訪れたときは比べ物にならないくらいに、近代化した北京で行われた、オリンピックは、そこそこ盛り上がり成功したように思える。そんな中、中国らしさを感じたのは、開会式で中国の五〇の民族の子供達がそれぞれの民族の衣装を着て登場したらしいのだが、実はその子たちはみんな漢民族の子供であつたらしい。中国得意の偽装がオリンピックにも炸裂した模様だ。チベットやウイグルのことが国際的に叫ばれている昨今に、まさに国際社会に喧嘩を売っているとしたか思えない中国の暴挙に憤りを感じずにはいられない。さすがは、主食が天津食品の冷凍餃子の国は違うなと思う今日この頃。あ、中国では、焼き餃子は食べないらしい…。あの餃子は、輸出専用であるのか…。南無…。

原動力

三年 中原 知之

生活の中での張り合いという言葉を目にすることがあるが、自分にとってシーズン中のそれはポートでなかったらうかと思う。

時には逃げ出したくなる練習、新聞配達並みの尋常ではない集合時間など、辛さを拳げていけばきりがないので、それでもこれまで投げ出してこなかったのは、それに

よつて自分が動かされていること、生活の原動力になつてゐる事を実感しているからだと思う。時にはポート以外の生活に懸けるエネルギーが残つてないということもなくはなかつたが、それでも、もしポートをしていなくなつたらと考へた時、浮かんできてくるのは平凡なで単調な日々だ。きつとポートがなくなつて空いてしまつた時間はぼーつと過ごしてしまふに違ひない。

しかし、そう言い切れるのも仲間の存在があるからだと思う。特にシーズン中は家族以上に時を共にする同級クルー。彼らの存在は大きい。きつい練習を共に乗り越えていくのもそうだが、他愛のない会話やただ一緒に飯を食べるだけで、悩んでいることもいつの間にか薄れていつてしまふ不思議な存在だ。谷底に突き落とされたような気分の時にも彼らにどれだけ救われたことか。最高の仲間に関わられてこそ辛さも原動力に変えられたんだろうと思う。

もうしばらくはポートが生活の原動力となつてゐるはずであるが、この先自分にとっての原動力となるものをどんどん見つけていきたい。

ゆき

三年 松浪 周平

先日、僕の大切なコが死んでしまつた

あまりに突然で、悲しみよりも驚きのほうが大きくて、意外と涙は出なかった。死に目に会えなかったからか、自分が薄情なのか雪のように白くて、綺麗であまりにかわいくて意地悪ばっかりしてたから結構嫌われて

結局最後まで嫌われっぱなしだった
実家に帰ると本当にいなくなつて
いつもあそこに寝転がっていたのに
たまに鳴きながらすり寄って来てくれたのに
「ニャー」って

雑感

二年 川口祐太郎

今シーズンは、Bクルーに乗っていじめられました。漕ぎの技術だけでなく、厳しい先輩の必要性、部活としてのあり方：振り返ってみるとさまざまなことを学んだシーズンでした。次どのクルーに乗るかまだ決まっていなくても、どの艇に乗ってもいじめてくれる先輩が絶対いるので、きちんとついていきたいと思えます。また後輩に対しては怖い先輩でありたいと思いました。

ザツカン

二年 陣野 太陽

ニシイタイ ガ オワツタ ト オモイキヤ サツソク
テストベンキョウ。
ボンスギ ノ ウミ ハ ギャル ノ カワリニ クラ
ゲ ト イラ、イラ、イラ……。マジ イライラ。
コノ ホシ ハ コンナニモ スミニクイモノナノカ。
モウ ダンス アンド シャウト スルシカ ネー♂♂

ボート部とジョイフル

二年 水野 貴基

ボート部とジョイフル（ファミレス）は切っても切り離せない関係である。特にシーズン中にはジョイフルに行かない週はないと言っても過言ではない。ジョイフルは一人暮らしで不足しがちな栄養分と、練習によって奪われた水分を良心的な価格とポリウムでやさしく補ってくれる。週末の朝練が終わると僕らは暗黙の了解のもとにジョイフルへ。十時までに行ければお得なモーニングにありつける（無料でドリンクバーがつく）。仮にこの時間に間に合わなくても心配ない。ランチが始まるのだから。僕のオス

スメはツインハンバーグ（洋風と和風）にライス大盛り。ここで気をつけるべき点を一つ述べたい。食べ過ぎは要注意だ。勢いあまつて食べ過ぎると二部練目に差し支えてしまふ。腹八分がベストだ。お腹が満たされたら二部練目に向けていざ子々川へ。

ありがとうジョイフル。そしてこれからもよろしく。

雑感

一年 朝野 寛視

夏休み暇です。

雑感

一年 大井隆之介

ボート部に入部して早五ヶ月が経ち、夏の合宿など逃げ出したい時期もあったが、今となつてはボート部に入つてよかつたと思つている。高校でも部活はやっていたが、試合に出ることがほとんどなかつたので、一年生から試合に出場できたことは自分にとつて貴重な経験となつた。

しかしながら、予選での宮崎大学・天照Ⅱ、敗復での熊本大学・イービス艦ならびに大和に大敗したことは自分の

中で本当に悔しく、またこれまで指導していただいた同じクルーの先輩方に、結果を残すことができず申し訳なく感じた。まだ一年生だからうまく漕げなくても仕方がない、という普段からの練習の甘えが敗北の大きな原因だったと思う。

同じクルーのメンバーで乗艇してもう一度挑むことができないのは残念ではあるが、秋に行われる四校戦では必ず宮崎大学と熊本大学に勝つてみせる。そのためにも妥協せず、一本一本の漕ぎに対して食欲さを持ち続けて練習に励んでいくつもりだ。

雑感

一年 上瀧 善邦

ボート部には絶対入らないからと花見の日の夜に親に連絡したのに、いつの間にかボートを漕いでいる自分がある。ビールは二十歳になるまで絶対に飲まないからとかつて宣言していたのに、いつのまにか酔つてる自分がある。

料理をすると意気込んでいたのに、いつのまにか惣菜を買つてる自分がある。大学生つておもしろい。

雑感

一年 三瀨 正秀

雑感

一年 山内 大志

勧誘時のノリと勢いで入部したボート部。そのノリと勢いで西医体でもそれなりの成績は残せるんじゃないね、新人部門だしと当初は思っていたが、そんなに甘いものではなかった。楽勝であるはずの予選は三位、敗者復活戦でギリギリタイムで拾われ準決勝進出するも、準決勝では自分が後半で切れ込んでしまいHIDEKO。他の普賢クルーには本当に申し訳なかったし、自分たちの力の無さを痛感させられた大会だった。

来シーズン、どのような形で西医体に出るかは分からないが、納得の行く結果が残せるようオフシーズンからしっかり頑張っていきたい。

雑感

一年 丹下 寛也

朝練が朝にあるからメッチャきつい。

毎年、夏が終わるのは甲子園が終わると同時に来ると勝手に思っています。今年は沖縄県代表の浦添商業が準決勝まで残っていたので、最後までいい夢を見ることができました。球児の必死な姿を見ると、僕も野球やっていたころの気持ちを思い出す。今度一緒にキャッチボールしましょう！

2007年度OB総会議題一覧

- 1 司会（市川先生）開会
- 2 平成19年度新OB会員紹介
- 3 OB会事業報告（井上先生）
- 4 OB会会計報告
- 5 OB会役員改選
- 6 顧問教官報告
- 7 平成19年度長崎大学医学漕艇部活動報告
- 8 平成20年度長崎大学医学漕艇部活動予定報告
- 9 平成20年度長崎大学医学漕艇部OB会収支報告

平成 20 年度長崎大学漕艇部OB会収支報告

収 入	備 考
前期繰越	1,234,963
会 費	3,160,000 40,000×20名(H13～H19年度分)=800,000 40,000×52名(H20年度分)=2,080,000 40,000×7名(H21～H22年度分)=280,000
寄 付	5,000 近藤学先生より遺稿集寄付金として
部誌広告・協賛	240,000 17社
預金利息	464
合 計	4,640,427

支 出	備 考
西医体遠征費	624,380 西医体エントリー費
九朝レガッタ遠征費	180,000 九朝エントリー費
部誌経費	(H19年度発刊分)
新入生勧誘費・追コン	300,000
漕艇保険	220,640
艇等購入費	1,158,930 購入費、輸送費、手数料
艇等修理費	
ボート協会登録費	
スピードコーチ代	48,050
通 信 費	39,530 切手、はがき、封筒、送金料
雑 費	
会費手数料	14,170
次期繰越見越額	2,054,727
合 計	4,640,427

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもつて当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならぬ。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院:勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
長西 靖	731-5125 731-5125	長西耳鼻咽喉科医院:広島市佐伯区五日市駅前1-11-37 広島市佐伯区五日市駅前1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839		S46
冬野 誠三	847-0844 847-0844	なびたけ冬野クリニック:唐津市菜畑3660-1 唐津市菜畑4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	Nabatake@star.saganet.ne.jp fuyuno@matsuronet.co.jp	S48
松本 恵一良	847-0846 592-0003	松本内科クリニック:堺市鳳西1丁-92-2 大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-0588 072-264-8828	kema@violet.plala.or.jp	S49
峰 雅直	854-0034 847-0849	諫早市小野町332管整形外科病院 長崎市柳谷町4-13	0957-23-2388 095-847-6031		第1内科 S49
朝戸 未男	891-9112 891-9112	朝戸医院:鹿児島県大島郡和泊町和泊14 鹿児島県大島郡和泊町和泊16	0997-92-1131 0997-92-2280	sasato@nisiq.net	S50
内田 隆寿	859-4825 857-0135	青州会病院:長崎県北松浦郡田平町山内免612-4 長崎県佐世保市瀬戸口11-30	0950-57-2155		第2外科 S50
桜井 一枝	720-0822 721-0952	みつふじ小児科:福山市川口町2-22-11 広島県福山市曙町5丁目24-38	084-953-0307 0849-54-4454	mitsufuji@fukuyama.hiroshimamed.or.jp	小児科 S50
瀬戸 信二	852-8501 852-8052	長崎市坂本町1-7-1長崎大学大学院総合研究科循環病体制御培化学 長崎市岩屋町17-2	095-849-7288 095-857-1808	s-seto@nagasaki-u.ac.jp	第3内科 S50
早田 篤	850-0031 847-0859	桜町福祉保険部中央保健センター 長崎市立岩町77-10	095-829-1154 095-862-5622		小児科 S50
田川 泰	852-8520 851-2128	長崎大学医歯薬総合研究科保健学科専攻 長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-819-7000 095-887-1391	tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1外科 S50
富海 五郎	790-0903	なし 愛媛県松山市東野1丁目6-15	089-977-1812		愛媛大精神科 S50
中野 文耕	853-2301 853-2301	新上五島町立若松診療所:長崎県南松浦郡新上五島町若松郷281 長崎県南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3315 0959-46-3318	メールアドレスは使わない	第2外科 S50
丹羽 正美	852-8523 851-2127	長崎大学医学部第1薬理学教室:長崎市坂本1-12-4 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4	095-849-7041 095-883-6395	niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S50
馬渡 一雄	850-0001 850-0001	まわたり内科医院:長崎市西山2丁目9-2 長崎市西山2丁目9-2まわたり内科	095-822-0101 095-822-0101		第3内科 S50
石川 治	670-0936 670-0936	石川医院:姫路市古二階町135 姫路市古二階町12	0792-23-3270 0792-23-1307		岡山大外科 S52
川口 昭男	850-0045 852-8046	井上病院:長崎市宝町6-12 長崎市柳谷町14-27	095-844-1281 095-847-5529		第1外科 S52

神田 源大	854-0301	愛野記念病院(非常勤): 雲仙市愛野町甲3838-1	0957-36-0015		皮膚科
	850-0003	長崎市片淵1丁目12-7	095-822-7051		S52
田中 精一	192-0903	八王子消化器病院: 東京都八王子市万町177-3	0426-26-5111		女子医大消化器センター
	193-0811	東京都八王子市上巻分方町246-1	0426-51-7640	s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp	S52
堤 健二	833-0054	つつみ脳神経外科クリニック: 福岡県筑後市大地蔵敷642-7	0942-42-1155		脳外科
	839-0863	久留米市国分町1121-97パンテイング国分B-1	0942-22-3272	k-tutum@mx2.tiki.ne.jp	S52
吉良 瑞夫	852-8008	長崎市曙町3-6浜崎外科病院	095-861-6034	kira@mx.b.cncm.ne.jp	第2外科
	847-0881	長崎市曙町3-6	095-861-6034		S54
出口 正巳	不明	不明	06-4797-4000		形成外科
	659-0012	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46	0797-38-8077	masami@deguchi.name	S54
井上健一郎	850-0045	井上病院: 長崎市宝町6-12	095-844-1281	ken-inoue@shunkaikai.jp	第2内科
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218		S55
小村三代治		～逝去～			S55
江口 圭介	857-0015	干住診療所佐世保市栄町5-26	0956-23-1010	dreguchi@hyper.ocn.ne.jp	第3内科
	857-0015	佐世保市松山町5-38	0956-22-2224		S55
成松 元治	811-0117	福岡県糟屋郡新宮町上府太郎丸675 (医法)北里循環器科医院	092-962-0022	narimatu@ngs1.cncm.ne.jp	心臓血管外科
	811-0117	福岡県糟屋郡新宮町上府678-8-103		narimatsu@nmc.hosp.co.jp	S55
水谷 明正	847-0890	長崎記念病院: 長崎市深堀町1-11-54	095-871-1515		第2外科
	847-0891	長崎市ダイヤランド1-36-19	095-878-3807	akimae@momo.so-net.ne.jp	S55
小倉 猛	866-8533	熊本労災病院: 熊本県八代市竹原町1670	0965-33-4151		形成外科
		熊本市画図町重富744-13	096-379-7592	togura@lme.plala.or.jp	S56
谷川 宗生	847-0894	長崎北病院: 長崎県西彼杵郡時津町元村郷800番地	095-886-8700		第3内科
	847-0895	西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-883-4030		S56
難波 裕幸	850-0921	長崎市松が枝町3番20号: 医療法人春秋会 南長崎クリニック	095-827-3606	namba@nagasaki-u.ac.jp	原研細胞
	847-0897	長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-883-7541		S56
前原 洋二	835-0024	森整形外科: 福岡県山門郡瀬高町大字下庄590	0944-63-2040	stady@m@polkaplala.or.jp	S56
	847-0899	福岡県久留米市津福本町786-6グラウンピアズジョン津福1001	0942-37-5038		
村山 晋	514-0043	三重県津市南新町17-22蓮山病院	059-227-6171		三重大第1内科
	514-0003	津市桜橋3-446-50 フォル桜橋608	059-222-5687	stellamurayama.0425@za.ztv.ne.jp	S56
山近 史郎	850-0045	特別医療法人春回会 井上病院内科・循環器科 長崎市宝町6-12	095-844-1281	yamachika@shunkaikai.jp	心臓血管外科
	850-0804	長崎市彦見町18-4	095-825-3580	shiyama@mx.cncm.ne.jp	S57
岡田 代吉	807-0904	おかた外科胃腸クリニック: 北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202	093-613-7188	メールは使わない	
	807-0846	北九州市八幡西区里中1丁目8-22	093-613-3732		S58

倉富 彰秀	842-0002	医療法人 輝秀会・佐賀県神埼市神埼町田道ケ里2435-1	0952-52-8841	soarer1956@w4.dion.ne.jp	S58
	847-0002	佐賀県神埼市神埼町田道ケ里2435-1		posa-japan@msf.biglobe.ne.jp	S58
末永 俊郎	801-0852	末永産婦人科麻酔科：北九州市門司区港町6-15	093-321-2453	suetoshi@kk.ij4u.or.jp	S58
	801-0852	北九州市門司区港町6-15	093-322-1751		第1外科
中崎 隆行	852-8104	長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15	095-847-1511	nakazaki@topaz.ocn.ne.jp	S58
	852-8102	長崎市坂本2-18-15	095-842-2391		S58
永見 耕一	758-0025	永見眼科医院：山口県萩市土原351	0838-22-0720	nagami@haginet.ne.jp	S58
	758-0025	山口県萩市土原351			第1薬理
永山 雄二	852-8523	長崎大学医学部原研分子教室：長崎市坂本1丁目12-4	095-819-7173	nagayama@nagasaki-u.ac.jp	S58
	851-2126	長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷579-40	095-887-2796		S58
松永 伸彦	854-0072	まつなが眼科：諫早市永昌町43-1	0957-25-8866	matsu@mocho.ocn.ne.jp	S58
	854-0086	長崎県諫早市堀の内町23-2	0957-27-1333		S58
松尾 圭一		～逝去～			S58
今里 雅之		～逝去～			女子医大消化器センター S59
小林 誠博	803-0831	北九州市小倉北区日明（ひあかり）4丁目6-28 小林外科医院	093-561-6353		第1外科
	805-0016	北九州市八幡東区高見2丁目10番1-601	093-651-8786	qq2r9xwn9@vega.ocn.ne.jp	S59
平野 友久	850-0953	上戸町病院：長崎市上戸町129	095-879-0705	hirano@kenyukai.or.jp	S59
	850-0963	長崎市タイヤラト3-28-6	095-878-8913		第1外科
糸柳 則昭	850-0842	糸柳クリニック 長崎市新地町1-5 MMCEビル4階	095-832-7000	itoyanagi@nifty.com	S60
	851-2130	西彼杵郡長与町まなひ野2-18-2	095-887-4927		筑波大精神科
日高 真	305-8558	筑波マテイカルセンター病院：茨城県つくば市天久保1-3-1	029-873-3882	hidaka@tmch.or.jp	S60
	300-1245	茨城県つくば市高崎692-5	095-822-3151	hidaka.sin@silk.plala.or.jp	第1内科
松岡 直樹	850-0832	長崎内科リウマチ科病院：長崎市油屋町1-21	095-829-4077	nmatsuoka-nag@nagasaki.net.or.jp	S60
	850-0037	長崎市金屋町9-9-1301	0930-24-5211		整形外科
矢次 登	800-0344	小波瀬病院：福岡県京都郡苅田町新津字1598	092-762-5352		S60
	810-0052	福岡市中央区大濠1-10-24-601	095-883-6668		第2外科
高須 勝也	851-2126	常葉会 長与病院：長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷647	0957-43-2654	nakazato@ymt.hbq.jp	S61
	859-0407	諫早市多良見町シーサー120-133			内科
中里 貴浩	811-2232	勤務先：栄光病院消化器内科福岡県糟屋郡志免町別府西三丁目8番15号	092-934-3648		S61
	811-2103				産婦人科
中山 大介	852-8501	長崎大学産婦人科 095-819-7363	095-849-7363	nakayama@nagasaki-u.ac.jp	S61
	850-0048	長崎市上鏡座町12-2	095-848-4575		S61

青木 幹弘	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121	aoki@mnc.hosp.go.jp	小児科
	856-0846	長崎県大村市日泊町446-1	0957-50-0956		S62
石井 久敬	831-0004	福岡県大川市復津137-1 国際医療福祉大学リハビリテーション学部	0944-89-2000		福岡大学精神神経科
	814-0001	福岡市早良区百道浜4-17-9	092-821-7340		S63
岡野 邦彦	852-8102	長大附属病院整形外科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7321	kuni@net.nagasaki-u.ac.jp	整形外科
	852-8117	長崎市平野町14-13セントヒルズ平野102号			S63
朝長 道生	843-0301	朝長医院:佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2188	0954-43-2117		第2内科
	843-0301	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2191	0954-43-2132	tomonaga1962@gmail.com	S63
中島 寅彦	812-8582	九州大学医学部耳鼻咽喉科:福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5668		九大耳鼻科
	814-0113	福岡市城南区田島6-2-24	092-871-5238		S63
天野 秀明	852-8055	虹ヶ丘病院 呼吸器科:長崎県長崎市虹ヶ丘町1-1	095-856-1112	froatingymph@ybb.ne.jp	呼吸器科
	852-8027	長崎市城山台2丁目30-3	095-864-1101	chinu@ceres.dti.ne.jp	H1
金色 正広	805-8534	北九州市立八幡病院麻酔科:北九州市八幡東区西本町4-18-1	093-662-6565		麻酔科
	805-0061	北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-663-3055	kanairo@mars.dti.ne.jp	H1
吉川 公正	803-8543	健利会 大手町病院:福岡県北九州市小倉北区大手町15番1号 093-592-55	093-881-8181	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	脳外科
	808-0016	北九州市若松区原町9-6	093-751-6528		H1
旭 隆宏	811-3414	福岡県宗像市光岡5番1号:あさひ小児科クリニック	0940-34-8555		九大小児科
	811-4163	福岡県宗像市自由ヶ丘1-9-7	0940-33-1492	asahi-clinic@orange.plala.or.jp	H2
白藤 智之	852-8125	聖フランスコ病院:長崎市小峰町9-20	095-846-1888		第1外科
	852-8151	長崎市泉1-3-4	095-848-0191	shirahuji@hotmail.com	H2
寺尾 保信	113-8677	東京都立駒込病院:文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		慈恵大形成外科
	108-0074	東京都港区高輪3-16-8-206	03-3443-5034	y.terao@cick.jp	H2
中村 晋	813-0042	中村内科医院:福岡市東区舞松原1丁目1-6-18	092-681-7363	ryo-n@nm.ijdu.or.jp	九大第2内科
	813-0031	福岡市東区八田2丁目1-52 ヴェルデ香椎南413	092-662-4414		H2
山本 太郎	852-8523	長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野:長崎市坂本1-12-4	095-819-7869	y-taro@nagasaki-u.ac.jp	熱研社会環境
	853-8102	長崎市坂本1-11-15-12	090-7462-6959		H2
生田 安司	853-0393	嬉野市嬉野町大字下宿丙2436嬉野医療センター外科	0954-43-1120	yikuta@uresino.go.jp	第一外科
	843-0301	嬉野市嬉野町大字下宿丙2436-6-52			H3
市川 辰樹	852-8501	長崎大学付属病院 第一内科:坂本1-7-1	095-849-7262	ichikawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1内科
					H3
鈴木 康弘	860-8556	熊本大学第二内科:熊本市本庄1-1-1	096-344-2111		熊本第2内科
	862-0924	熊本市帯山2-5-74		totoro_64@yahoo.com	H3
田中 邦彦	852-8523	長崎大学医学部第一薬理:長崎市坂本1丁目12-4	095-819-7043	kunny-ta@net.nagasaki-u.ac.jp	第一薬理
	852-8035	長崎市油木町52-93-413	095-845-8355		H3

山本 修	850-0004	山本外科医院:長崎県長崎市下西山町1-5-1F	095-823-8585		第2外科
	850-0015	長崎市矢ノ平二丁目2-23	095-824-4600		H3
劉 中誠	857-0071	健康保険諫早総合病院:長崎市諫早市永昌町24-1	0957-22-1380	cryu@hospital-1sahasougo.jp	第1外科
	851-0137	長崎市高城台2丁目11-35	095-839-2112	cryu@ruby.ocn.ne.jp	H3
黒木 保	852-8102	長崎大学移植消化器外科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7316	tkuroki-g@umin.ac.jp	第2外科
	852-8501	長崎市小江原4-18-3			H4
佐藤 俊一	380-8582	長野市若里5丁目22-1長野赤十字病院	026-226-4131	ssato@nagano-med.jrc.or.jp	信州大第3内科
	380-0803	長野市三輪4-2-22 102号	026-232-7970		H4
趙 成三	852-8101	長大附属病院麻酔科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7370	chos@net.nagasaki-u.ac.jp	麻酔科
	852-8061	長崎市滑石5丁目4-80-404	095-856-3793		H4
津田 純	154-0014	津田耳鼻咽喉科:東京都世田谷区新町3-20-1 ヲエルジエ桜新町206	03-5450-7237	jun_aya_kaoru@nifty.com	H4
	105-0001	東京都南区虎門3-14-1 2604	050-5803-8152		形成外科
中野 基	857-8511	佐世保市平瀬町9-3佐世保市総合病院形成外科	0956-24-1515	motoinakano@hotmail.com	H4
	857-0806	佐世保市島瀬町3-27グラデュエ島瀬ビル2202号	0956-25-7087		形成外科
福井 雅士	850-0045	井上病院:長崎市宝町6-12	095-844-1281	fukunimasashi@hotmail.com	H4
	852-8015	長崎市春木町15-55	095-861-3693		第2外科
南 恵樹	855-0861	長崎県島原市下川尻町895番地県立島原病院外科	0957-63-1145	shininami-g@umin.net	H4
	852-8108	長崎市川口町1-1-1213	095-846-8660		第1外科
竹下 浩明	852-8501	長大医学部附属病院第1外科:長崎市坂本町7-1	095-819-7304	takehiro@nagasaki-u.ac.jp	H5
	852-8133	長崎市本原町19-8	095-800-2696		形成外科
近藤 新二	852-8521	長崎市文教町1-14長崎大学薬学部薬物治療学	095-819-2448	kondos@nagasaki-u.ac.jp	H6
	850-0001	長崎市西山4丁目511-301	095-844-7177		麻酔科
斎藤 将隆	805-0012	北九州市立八幡病院:福岡県北九州市八幡東区西本町4丁目18-1	093-662-6565	saito@yahata.ht.jp	H6
	805-0016	福岡県北九州市八幡東区高見町1-2-25-209	093-653-2246		
阪上 学	565-0871	大阪大学医学部附属病院 麻酔集中治療科:大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3133	sakaue@anes.med.osaka-u.ac.jp	大阪大麻酔科
				sakaue@ff.iij4u.or.jp	H6
松尾 敏明	894-2322	加計呂麻徳洲会診療所:鹿児島県大島郡瀬戸内町瀬相747-1	0997-75-0116		神戸大国際予防医学
	894-2322	鹿児島県大島郡瀬戸内町瀬相747-1	0997-75-0373	maritongtong@yahoo.co.jp	H6
岩井 敏郎	806-8501	九州厚生年金病院:福岡県北九州市八幡西区岸の浦1丁目8-1	093-641-5111		九大心臓血管外科
	814-0104	福岡市城南区別府7丁目5-35-1005	092-821-7225		H7
宗 英吾	843-0393	嬉野市嬉野町大字下宿丙2436嬉野医療センター	0954-43-1120	eigo@uresino.go.jp	耳鼻科
	850-0871	長崎市麴屋町2-131だるまビル303	095-826-2472		H7
中瀬 了太	852-8501	長崎大学医学部第1薬理学教室:長崎市坂本1-12-4	095-819-7773	nakaoka@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理
	852-8027	長崎市城山台2-32-8	090-7986-2728		H7

藤本 武士	825-8567	田川市立病院:福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100	tfujiimoto@hospital;tagawa.fukuoka.jp	第1内科	H7
安田恵多良	560-0021	やすだクリニック:大阪府豊中市本町2-4-28	06-6846-2222	yasuda_clinic@plano.ocn.ne.jp	大阪大脳外科	H7
古賀 洋安	852-8501	大阪府豊中市刀根山6-2-5	06-6531-3133	gentaro999@yahoo.co.jp	久留米大小児科	H8
城田 利彦	01558-2-3111	長崎大学医学部付属病院麻酔科:長崎市坂本1-7-1	095-819-7475	coffee35@mx6.tiki.ne.jp	久留米大小児科	H8
関 徹	272-8813	北海道広尾郡広尾町公園通南4-1 広尾町国民健康保険病院 循環器内科	095-819-7288	hiroko@mx6.tiki.ne.jp	九大心臓血管外科	H8
武野 正義	852-8102	140-0002 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環病態制御内科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7288	toshishirota@hotmail.co.jp	九大心臓血管外科	H8
福田 顕三	838-0141	静和中山病院千葉県市川市中山2-10-2	047-334-3480	QWP07174@nifty.ne.jp	東北大精神科	H8
山里 昌司	825-8567	830-0047 東京都品川区東品川4-10-18-1507	03-3450-3810	mtakeno@net.nagasaki-u.ac.jp	第3内科	H8
岡 真一郎	870-0857	福岡県久留米市 津福本町6-47	0942-31-5715		第2外科	H8
岡田和一郎	440-8510	福岡県福岡市早良区小田部6丁目12-20 リバーウインズ103号	0947-44-2100		第3内科	H8
牟田口 滋	839-0801	福岡県田川市桐ヶ丘7組医師住宅11-A	0947-45-3025		第2内科	H9
大石 正雄	904-2165	大分市王子山の手町二組グラントオーウ王子305号	097-543-1177		第2内科	H9
古賀 聖士	852-8501	豊橋市飯村町字高山11番地 国立療養所豊橋医療センター	0532-62-0301		九大整形外科	H9
崎元 暢	173-8610	愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301	090-1625-8528		形成外科	H10
山崎 励至	857-8511	久留米市宮ノ陣3丁目3番8号 古賀病院21	0942-38-3333	shigemuta@ybb.ne.jp	第2内科	H10
高橋 優二	854-8501	福岡県福岡市早良区小田部6丁目12-20 リバーウインズ103号	0942-44-3064	moishi999@hotmail.com	第2内科	H10
谷川 治	838-0068	大分県中津市宮里3-25-47-301	098-927-7126	kogase@mac.com	第2内科	H10
	810-0055	長崎市長大病院第2内科	095-819-7274	torusaki@med.nihon-u.ac.jp	日大眼科	H10
		長崎市坂本1丁目4-5-207	095-819-7274	toruotto@mwe.biglobe.ne.jp	形成外科	H10
		日本大学医学部眼科:板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111		原研内科	H10
		港区白金2-7-17-1102	03-3443-3313			
		佐世保市立総合病院	0956-24-1515			
		健康保険諫早総合病院:長崎市諫早市永昌町24-1	095-848-841	yujibika@pop16.odn.ne.jp		
		長崎市文教町12-3ライオンズマンション文教609号	0946-22-5511			
		朝倉健康病院:福岡県朝倉市甘木151-4	090-4584-1027			
		福岡市中央区黒門3-11-302				

牧野 淳	130-8575 136-0071	都立墨東病院救命救急センター：東京都墨田区江東橋4-23-15 東京都江東区亀戸2-1-21-406	03-3633-6151 03-5856-8054	junmakino@hotmail.co.jp	H11 耳鼻科
宮崎 浩亮	980-8574	東北大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科：仙台市青葉区星陵町1-1 現在アメリカに留学中	022-717-7304	hiro-m@yg7.so-net.ne.jp	H11
山本 経之		逝去			
吉野 俊平	820-8505	福岡飯塚病院：飯塚市芳雄町3-83 福岡県飯塚市川島1-7-1クサノイ立岩601	0948-22-3800 0948-23-8590	syoshi26@aol.com	飯塚病院 H11
渡谷 正樹	755-0067 755-0035	山口大附属病院第2内科：山口県宇部市南小串1-1-1 宇部市西琴芝2丁目10-23-203	0836-22-2653 0836-29-0428	hobgm-sby@asahi-net.or.jp	山口大第2内科 H12 神戸大第2内科
土井 晋平	不明	不明			H12
福田 義文	671-1688 651-2274	たつの市揖保川町半田703-1 揖保川病院 神戸市西区竹の台4-21-5	0791-72-3050 078-991-5883	a807445@mocone.jp	H12
程野 茂樹	790-8524 799-3111	愛媛県松山市文京町1番地松山赤十字病院麻酔科 愛媛県伊予市下吾川676-1	089-924-1111 089-983-3504	hodono@id5.so-net.ne.jp	愛媛大麻酔科 H12
松永 祥志	856-8562 856-0835	国立病院機構長崎医療センター：長崎県大村市久原2丁目1001-1 大村市久原2-1241-1-102	0957-52-3121		脳外科 H12
及川 将弘	852-8102 852-8135	長崎大学付属病院第一外科：長崎市坂本1-7-1 長崎市千歳町5-26 トラセビテ南棟1003	095-819-7304 090-1167-8282		麻酔科 H13
森 創	100-8916 273-0032	厚生労働省(順天堂大学公衆衛生学教室より出向)東京都千代田区霞が関1-2-2 千葉県船橋市葛飾町2-372 サニーウエスト西船橋404号 年久愛和総合病院茨城県牛久市猪子町896	047-434-1246 029-873-3111	mori-hajime@nhlw.go.jp neomorisco@k2.dion.ne.jp	H13 心臓血管外科
ウイケンロソ	300-1296 300-1236	茨城県牛久市田宮町137-144 201号室	090-9408-8805		H13
松本 周平	852-8102 852-8041	長崎大学付属病院麻酔科：長崎市坂本1-7-1 長崎市清水町3-23-506	095-819-7370 095-843-2536		H13
諸藤 陽一	852-8102 852-8117	長崎大学付属病院脳神経外科：長崎市坂本1-7-1 長崎市平野町8-17-102	095-819-7375	yoichi51@hotmail.com	H13 精神神経科
蓬莱 彰士	852-8102 852-8116	長大医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1丁目12-4 長崎市平和町8-17 303	090-1369-5720		H14 山口大第2内科
青山 英和	755-0067	山口大学大学院医学系研究所 山口県宇部市子串386-1MTビル301	0837-23-0033	不明	H14
西條 知見	852-8502 852-8116	長大付属病院第2内科：長崎市坂本1丁目7-1 長崎市平和町20-16エソジエコート白川201	095-819-7375 090-6880-8750		第2内科 H14

高木 理博	591-8025	近畿中央胸部疾患センター：大阪府堺市北区長曾根町1180番地	072-252-3021	rhaku1@mue.biglobe.ne.jp	熱研内科
	591-8025	大阪府堺市北区長曾根町1180番地 RC-2-221	072-259-5310		H14
田辺 孝大	130-0022	都立墨東病院救急救命センター：東京都墨田区江東橋4丁目23-15	03-3633-6155		麻酔科
	130-0022	墨田区江東橋4丁目23-15都立墨東病院医師公舎319号	090-9604-7079		H14
渡辺 庸平	980-8574	東北大学付属病院小児科：仙台市青葉区星陵町1-1	022-717-7744		小児科
	980-0011	仙台市青葉区上杉2-4-6-701	090-7549-9802	nabe-76@eagle.ocn.ne.jp	H14
崎元 晋	565-0871	大阪府吹田市山田丘2-2大阪大学眼科学教室			阪大眼科
	565-0821	大阪府吹田市山田東4丁目17-12 204号		skmtssm7923@yahoo.co.jp	H15
猪狩 圭介	856-8562	国立病院機構長崎医療センター：長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121		H16
	856-8562	大村市久原1001-1松移館201号			
近藤 学	747-8511	山口県立総合医療センター内科：山口県防府市大字大崎77番地	0835-22-4411		H16
	755-0049	山口県宇部市西琴芝2丁目2-5-302	0836-35-2524	golgo0307@hotmail.com	H16
田浦 康明		兵庫県立こども病院 小児外科			
	654-0081	神戸市須磨区高倉台1丁目1-1			H16
豊田 啓介	856-8562	長崎県大村市久原2丁目1001-1長崎医療センター脳神経外科	0957-52-3121		H16
	856-0835	長崎県大村市久原2丁目1001-1松移館203		enzokun7@yahoo.co.jp	H16
山口 仁平	856-8562	国立長崎医療センター耳鼻咽喉科：長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121		H16
	856-0835	長崎県大村市久原2丁目790-1-102		yninpei@hotmail.com	H16
吉武 記一	755-8505	山口大学医学部附属病院：山口県宇部市南小串1-1-1放射線科	0836-22-2283		H16
	747-0836	山口県防府市大字植松1799	0835-29-0363	kiichi_12_23@yahoo.co.jp	H16
高田 潤	533-0032	大阪市東淀川区淡路2-9-26 淀川キリスト病院	06-6322-2250		H17
	533-0033	大阪市東淀川区東中島6-8-18淡路シヅルハイイツ108	06-6320-4075	a105105@ych.or.jp	H17
荒木孝太郎	816-0864	福岡県春日市須玖北4丁目5番地：福岡徳州会病院	092-573-6622		H18
	816-0873	福岡県春日市日の出町1-1ウイーンズ309号		kotaro002@hotmail.com	H18
夏田 孔史	852-8501	長崎市坂本1丁目7番1号：長崎大学医学部歯学部付属病院		no_rain_no_rainbow1018@yahoo.co.jp	H18
	852-8102	長崎市坂本1丁目13-537サヒツインハイツ204号			
冬野 謙也	815-8555	福岡市南区大楠3丁目1番地1号	092-521-1211		H18
	814-0002	福岡市早良区西新2丁目21-8西新パークホームズ901		seijet@com.home.ne.jp	H18
山道 忍	852-8501	長崎市坂本1丁目7番1号：長崎大学医学部歯学部付属病院	095-849-7200		H18
	851-1131	長崎市上浦町112	095-841-0756	bwspn147@ybb.ne.jp	H18
大場 修治	901-0417	沖縄県島尻郡八重瀬町字外間80：南部徳州会病院	098-998-0062		H19
	901-1117	沖縄県島尻郡南風原町津嘉山809-6東宝建設ビル7403号室		s301027r@hotmail.co.jp	H19
茅田 洋之	653-0013	神戸市長田区一番町2丁目4番地：神戸市医療センター西市民病院	078-576-5251		H19
	653-0016	神戸市長田区北町2丁目31番地テレビ北町408号		inazawachainsaw1982@yahoo.co.jp	H19

末下 雅也	852-8116	長崎市平和町2-8-201	095-848-2990	apple47@themis.ocn.ne.jp	H19
西山 光郎	751-8501	下関市後田1丁目1番1号	0832-22-6216		H19
	751-0823	下関市豊船町3丁目16-43光が丘ハイツB207			
原口 雅史	857-8511	長崎県佐世保市平瀬町9番地3:佐世保市立総合病院	0956-24-1515		H19
	857-0832	長崎県佐世保市藤原町7-37医師公會104	0956-34-1323	n-hb219d.crob.ca9647.r.scm@hotmail.co.jp	H19
松浦 良樹	891-0141	鹿児島市谷山中央5丁目20番10号:鹿児島生協病院	099-267-1455	hrz0712@hotmail.com	H19
福島 真典	852-8501	長崎市坂本1丁目7番1号:長崎大学医学部歯学部付属病院	095-849-7200		H20
	852-8113	長崎市上野町3-2 201号室		ma_fu_numro@yahoo.co.jp	H20
村田 慎一	901-2103	沖縄県浦添市仲間2-15-7「ドリームマンション」301号室			H20

長崎大学医学部歯学部OB会役員名簿

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号		役職 備考
	自宅	自宅	自宅電話番号	自宅電話番号	
須山 弘文	850-0803	玉木女子短大:長崎市風頭1-13	095-822-8694		顧問
	852-8065	長崎市横尾二丁目4-5	095-856-1321		前法医学教授
尾崎 正若	861-1102	熊本県菊池郡西台志町須屋2740-30	096-242-2761		顧問 前第二薬理教授
山口 三次	852-8145	長崎市昭和町二丁目5-14	095-844-5272		顧問 前県ボート協会会長
吉田 恒雄	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979		顧問 県ボート協会会長
井上 健一郎	850-0045	井上病院:長崎市宝町8-9	095-844-1281		事務局担当
	852-8102	長崎市坂本一丁目2-5	095-846-2218		
諸藤 陽一	852-8117	長崎市平野町 8-17-102	FAX 095-824-4315		会計

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考・卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業・S19
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3034	開業・S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業・日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑ヶ丘町1-4	095-846-2052	開業・S19
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業・S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業・S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町17-1	095-861-3576	開業・S30

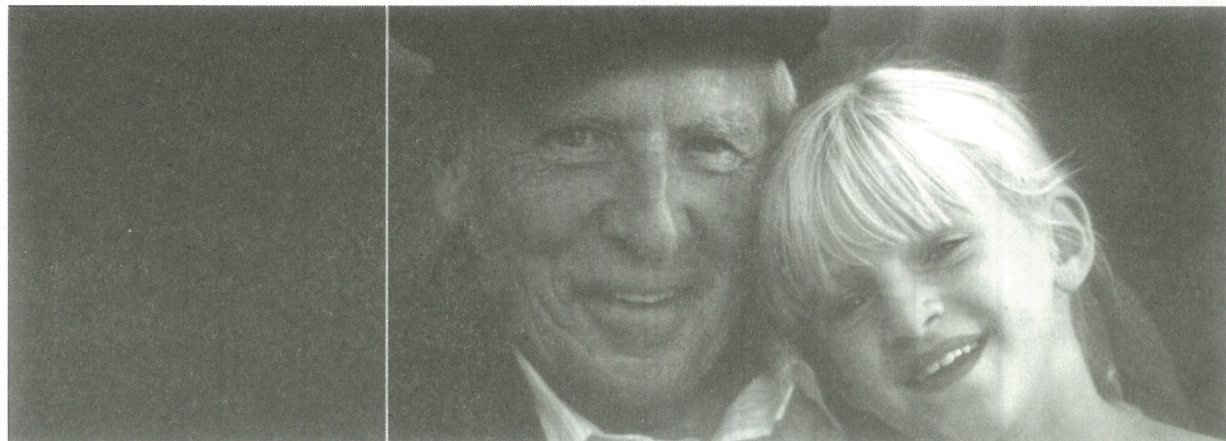
KYOWA KIRIN

オンリーワンの誕生。

バイオテクノロジーを強みとする協和発酵とキリンファーマは、
それぞれが培ってきた抗体医薬や重点領域における技術を融合させることで、
創業力のスピードアップとパワーアップが図れると信じています。
私たちにしかできない画期的な医薬品の開発を通じて、病と闘う世界中の人々に貢献したい。
そんな日本発の、グローバル・スペシャリティファーマをめざします。

協和発酵工業株式会社とキリンファーマ株式会社は、
「協和発酵キリン株式会社」としてスタートしました。

協和発酵キリン株式会社
www.kyowa-kirin.co.jp



輝くいのちのために

どこかで病気と闘っている患者さんのために。
健やかな人生を願うすべての人のために。
ノバルティス ファーマは革新的な医薬品とサービスで
人々の健康と豊かな生活に貢献し続けます。
ひとつひとつの輝くいのちを見つめながら。

 **NOVARTIS**

ノバルティス ファーマ株式会社
〒106-8618 東京都港区西麻布4丁目17番30号
<http://www.novartis.co.jp/>

BANYU
A subsidiary of Merck & Co., Inc.
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.



持続性ARB/利尿薬合剤

薬価基準収載

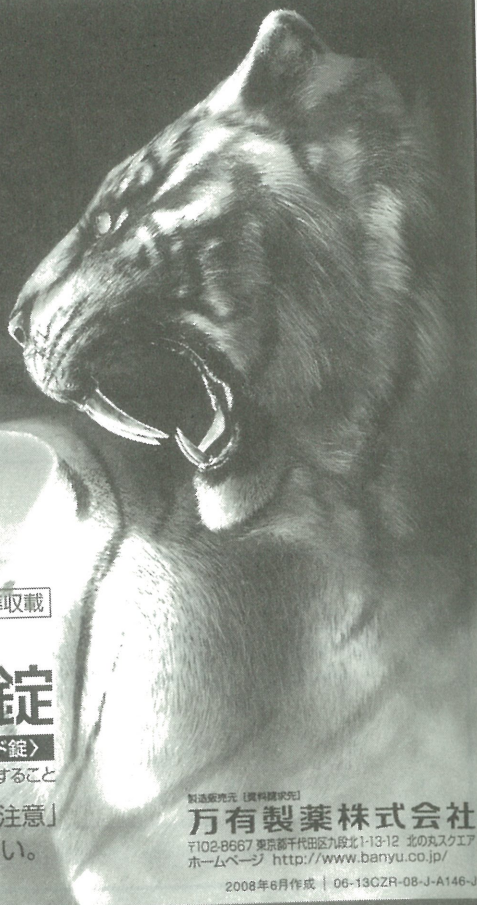
プレミネント錠

〈ロサルタンカリウム/ヒドロクロチアジド錠〉

指定医薬品・処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細については製品添付文書をご参照下さい。

Registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.



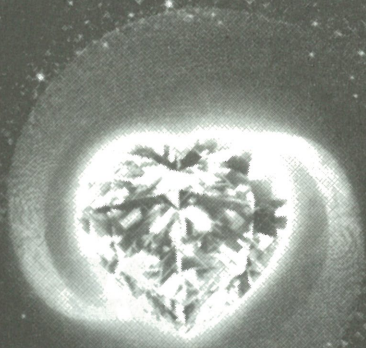
製造販売元〔資料請求先〕

万有製薬株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア

ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

2008年6月作成 | 06-130ZR-08-J-A146-J



持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤

指定医薬品 処方せん医薬品[※]

薬価基準収載



ブロプレス錠^{2.4} 8.12

(一般名: カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕

武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

(051)

Pariet®

指定医薬品・処方せん医薬品*
プロトンポンプ阻害剤

[薬価基準収載]

パリエット® 錠10mg
錠20mg

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

*注意-医師等の処方せんにより使用すること

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **hvc**
ヒューマン・ヘルステクニクス



エーザイ株式会社
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン室
☎0120-419-497 9~18時(土、日、祝日 9~17時)

PT0703-4 2007年3月作成

あなたに笑顔を



それが
私たちの願いです。



科研製薬株式会社

<http://www.kaken.co.jp>



シオノギ製薬

本社 : 〒541-0045 大阪府中央区道修町3丁目1番8号 電話 06-6202-2161

いのちの輝きを見つめる

Meiji



明治製薬株式会社

〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16

<http://www.meiji.co.jp/medical/>

祝「漕魂」29 + 30 合併号発行

グラクソ・スミスクライン株式会社

大鵬薬品工業株式会社

大日本住友製薬株式会社

日本化薬株式会社

バイエル薬品株式会社

長崎大学医学漕艇部 公式ホームページ

since 2000

http://www.geocities.jp/rowing_choudai/

～ Yahoo で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート競技と部の紹介、部のイベント、試合の記録などを
写真と一緒に載せています。OB専用掲示板もありますの
で卒業生同士の連絡にもご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>

編集後記

まず最初に去年12月に逝去された山本経之先生にこの場をお借りしてご冥福をお祈り申し上げます。

今回部誌の編集を担当させていただくにあたり、まず最初に考えたのは部誌発行と活動報告が1年ずれているという状況をどうにかしたいということでした。1年遅れでシーズンの反省が掲載されていたので、多大なご支援を頂いているOBの先生方に現在の部の状況が伝わりにくかったと思います。そこで今回の部誌は29、30号合併号ということにさせていただきました。今後は最新のシーズン結果を部誌に掲載していけるとと思います。

しかし、2年分を1冊にまとめる際にどうしても項数の関係上H.18年の内容を大幅に削らなくてはいけませんでした。その点につきましてはどうかご了承ください。

また、ご寄稿や追悼文を集める際に多くの先生方にご迷惑をおかけしましたこともこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

OBの先生方から多数寄稿していただき、今回も無事部誌を発行することが出来ました。このような充実した内容の部誌になりましたことを部員を代表して感謝の気持ちを述べさせていただきます。今後とも長崎大学医学漕艇部をよろしくお願い申し上げます。

編集者代表 古賀俊充 中原知之